

薦骨神経の後枝。

側薦骨動脈。

鍼灸の應用。

白帶下、子宮内膜炎、子宮實質炎、子宮周圍炎、喇叭管炎、月經不調、

遺尿、腰神経痛。

灸七壯乃至十五壯。

次

膠 改正孔穴、背部側線の内。

第二薦骨椎假棘狀突起下際の傍ら五分、即ち第二薦骨孔に相當する部に在り、  
腰背筋膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

薦骨神経の後枝。

側薦骨動脈。

鍼灸の應用。

白帶下、月經不調、子宮内膜炎、子宮實質炎、喇叭管炎、子宮外膜炎、

遺尿、尿閉、便秘、腰痛。

灸七壯乃至十五壯。

中

膠 改正孔穴、背部側線の内。

第三薦骨椎假棘狀突起下際の傍ら五分、即ち第三後薦骨孔に相當する部に在り、  
腰背筋膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

薦骨神経の後枝。

側薦骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

白帶下、月經不調、月經痛、遺尿、尿閉、喇叭管炎、子宮内膜炎、子



宮實質炎、子宮下垂症、腰痛。  
灸七壯乃至十五壯。

會陽

第一尾閥骨椎下際の傍ら五分に在り、大臀筋の起始部に當る。  
此部に分佈する神経、血管。

尾閥骨神經。

下痔動脈(内腸骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

慢性腸カタル、痔の出血、腺病、陰部頑癬、淋病。

灸七壯乃至十五壯。

(承)

扶) 禁灸穴、改正孔穴、下肢部の内、

臀部の下溝(臀皺壁)の中央に在り、二頭股筋起始部の内縁にて坐骨神經の經路

に當る。

此部に分佈する神経、血管。

後股皮下神經。

下臀動脈(或は坐骨動脈とも稱す、内腸骨動脈の枝)

鍼の應用。

肛門周圍炎、痔の諸症、月經痛、便秘、腰痛。

(股)

門) 禁灸穴。

大腿後側の正中にて二頭股筋と半膜様筋の中間に在り、承扶(臀筋隆起と大腿後側との境をなす横溝の正中)の下方六寸に當る。内部は坐骨神經の經路に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

後股皮下神經。

内廻旋股動脈(深在股動脈の枝)



鍼の應用。

坐骨神經痛、下肢の麻痺、大腿筋レウマチス、腰痛。

(委)

中) 禁灸穴。

膝關節の中央に在り、即ち腓腸筋の内外二頭間にて膝關節上に當り、内部を膝關節動脈及び脛骨神經が通過す。

此部に分佈する神經、血管。

後股皮下神經及び脛骨神經の關節枝。

膝關節動脈(膝關節動脈の枝)

鍼の應用。

腰部及び臀部並に下肢の麻痺、同部の神經痛、膝關節炎、足關節炎、癲狂。

附

分

第二椎即ち第一胸椎棘狀突起下際の兩傍三寸に在り、僧帽筋上にて肩胛骨内上縁に接近す、内部は肺尖を存す。

此部に分佈する神經、血管。

胸椎神經の後枝。

横頸動脈の下行枝。

鍼灸の應用。

項背筋の攣急、斜頸症、心悸亢進、心臟神經痛、筋萎縮、皮膚病。  
灸十壯乃至二十壯。

魄

戸

第三椎、即ち第二胸椎棘狀突起下際の傍ら三寸に在り、肩胛骨内縁に接近し、僧帽筋上に當る、内部は肺尖に相當す。

此部に分佈する神經、血管。



胸椎神經の後枝。

横頸動脈の下行枝。

鍼灸の應用。

肺氣腫、氣管支カタルル、肺勞、背筋の攣急、結膜炎。

灸十壯乃至二十壯。

膏 盲

第四椎、即ち第三胸椎棘狀突起下際の傍ら三寸に在り、僧帽筋上にて肩胛骨内縁に接近す、内部は肺を存す。

此部に分佈する神經、血管。

胸椎神經の後枝。

横頸動脈の下行枝。

鍼灸の應用。

身體一切の疾病に有効なりと云ふ。  
特に神經衰弱、倦怠症、遺精、結核の諸症、氣管支カタルル、肋膜炎、肋間神經痛。  
灸十壯乃至三十壯。

神 堂

第五椎、即ち第四胸椎棘狀突起下際の傍ら三寸に在り、僧帽筋上にて肩胛骨内縁に接近し、内部は肺臟を存す。

此部に分佈する神經、血管。

胸椎神經後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

胸背筋の攣痛、肋間神經痛、食道狹窄、心悸亢進、心臟諸疾患。



灸十壯乃至二十壯。

臆

謹

第六椎、即ち第五胸椎棘状突起下際の傍ら三寸に在り、僧帽筋上にて肩胛骨内縁に接近し、内部は肺を存す。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

慢性肋膜炎、胸筋及び背筋レウマチス、肋間神経痛、眩暈、マラリア、

微毒諸症、角膜炎。

灸十壯乃至二十壯。

膈

關

第七椎、即ち第六胸椎棘状突起下際の傍ら三寸に在り、僧帽筋上にて肩胛骨内縁の下際に接近し、内部は肺臓を存す。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

嚥下困難、食道狭窄、咳嗽、肋膜炎、気管支カタル。

灸十壯乃至二十壯。

魂

門

第九椎、即ち第八胸椎棘状突起下際の傍ら三寸に在り、僧帽筋上にて肩胛骨内下隅の少しく下方に當り、内部は肺臓を存す。

此部に分佈する神経、血管。



胸椎神経の後枝。  
後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

黄疽、肝臓の諸疾患、便秘、消化不良、腸疝痛、腸カタル、蛔虫、  
其他の腸寄生虫、心内膜炎。  
灸十壯乃至二十壯。

陽 綱

第十椎、即ち第九胸椎棘状突起下際の傍ら三寸に在り、潤背筋上に當り内部  
は肺臓の下端にして左は肝臓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。  
後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

黄疽、膽石痛、消化不良、蛔虫及び其他の腸寄生虫、便秘、下血。  
灸十壯乃至二十壯。

意 舎

第十一椎、即ち第十胸椎棘状突起下際の傍ら三寸に在り、潤背筋上にて内部  
は右は肝臓、左は胃及び脾臓に當り、又左右共に副腎に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。  
後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

嘔吐、下痢、消化不良、胃痙攣、腸疝痛、黄疽、蛔虫。  
灸十壯乃至二十壯。



胃 倉

第十二椎、即ち第十一胸椎棘状突起下際の傍ら三寸に在り、潤背筋上にて内  
部は腎臓及び副腎に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

胃の諸症、嘔吐、鼓脹、便秘、腎炎、血壓亢進症、糖尿病。

灸十壯乃至三十壯。

盲 門

第十三椎、即ち第十二胸椎棘状突起下際の傍ら三寸に在り、潤背筋上にて内  
部は腎臓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

胃擴張、胃カタル、消化不良、常習便秘、乳腺炎。

灸十壯乃至二十壯。

志 室

第十四椎、即ち第一腰椎棘状突起下際の傍ら三寸に在り、潤背筋上に當り、  
内部は腸を存し腎臓の外下縁に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

腰椎神経の後枝。

腰動脈の背枝。



鍼灸の應用。

腰痛、腸疝痛、腰腹部の癱、腹水、尿不利の諸症、消化不良。  
灸十壯乃至二十壯。

胞 盲

第一薦骨椎假棘狀突起下際の傍ら三寸に在り、大臀筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

薦骨神経の後枝。

上 臀 動 脉 (内腸骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

腸疝痛、消化不良、坐骨神経痛、股神経痛、腰部疼痛の諸症、便秘、尿閉。

灸十壯乃至三十壯。

秩 邊

第三薦骨椎假棘狀突起下際の傍ら三寸に在り、大臀筋の起始部に當る。

此部に分佈する神経、血管、

腰椎神経の後枝。

腰動脈の背枝。

鍼灸の應用。

痔、腰部疼痛の諸疾患、膀胱カタル、坐骨神経痛、攝護腺炎。  
但し鍼を禁ずと云ふ説あり。

灸十壯乃至三十壯。

浮 郤

膝膕窩の中央委中の上方一寸の點より外方にて二頭股筋腱の内縁に在り、腓骨神経の経路に接近す。



此部に分佈する神経、血管。

後股皮下神経。

上外膝關節動脈(膝關節動脈の枝)

鍼灸の應用。

淋病、尿意頻數、霍亂、下肢の麻痺、股神経痛、膝關節炎。

灸十壯乃至二十壯。

委陽

膝關節窩横紋の外端、即ち膝を屈して外側に生ずる約紋の尖端に在り、腓腸筋外頭の腱が腓骨小頭に附着する部の外側に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腓骨神経交通枝。

外膝關節動脈(膝關節動脈の枝)

鍼灸の應用。

半身不隨、下腿の神経痛、腰神経痛、腹筋痙攣。

灸十壯乃至二十壯。

合陽

下腿後側にて膝關節窩の中央(委中)より下方三寸に在り、腓腸筋の二頭が合する邊に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

後股皮下神経。

後脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

脊髓勞、脊髓炎、腸疝痛、子宮出血、子宮内膜炎、睪丸炎、下肢の神經痛。



灸十壯乃至二十壯。

〔承筋〕 禁鍼穴。

下腿後側にて腓腸部の中央に在り、即ち委中（膝關節の中央）の下方四寸五分にて腓腸筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の内下腿皮枝。

後脛骨動脈の枝。

灸療の應用。

腓腸痙攣、下肢の神経痛、下肢の麻痺、脚氣。

灸十壯乃至二十壯。

承山

下腿後側にて承筋（膝關節の中央委中より下方四寸五分）の下方凡そ三寸に在り、腓

腸筋が腱に移行する部に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の内下腿皮枝。

後脛骨動脈の枝。

鍼灸の應用。

脚氣、脊髄炎、脊髄勞、腓腸痙攣、痔諸症、便秘。

灸十壯乃至二十壯。

飛揚

改正孔穴、下肢部の内。

下腿外側にて足の外踝より上方七寸、腓骨後縁に在り、腓腸筋の外縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の内下腿皮枝。

腓骨動脈。



鍼灸の應用。

脚氣、脊髓勞、脊髓炎、腓腸痙攣、下腿の神経痛、眩暈、癩痢、失語症、痔核。

灸十壯乃至二十壯。

跗陽

下腿外側にて足の外踝の後縁より直上三寸腓骨の後縁に在り、アヒレス腱の外縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腓骨神経交通枝（腓骨神経の枝）

腓骨穿行動脈（腓骨動脈の枝）

鍼灸の應用。

脊髓勞、脊髓炎、霍亂、腹筋痙攣、腹膜炎。

崑崙

灸十壯乃至二十壯。

足の外踝の後方にてアヒレス腱の前縁に在り、外踝とアヒレス腱との間の凹陥部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腓骨神経交通枝（腓骨神経の枝）

前外踝動脈（前脛骨動脈の分枝）

鍼灸の應用。

癩痢、急性胃腸カタル、腓腸痙攣、アヒレス腱々鞘炎、下肢の筋炎、

同部の關節炎、狭心症、坐骨神経痛。

灸十壯乃至二十壯。

僕参



アヒレス腱が跟骨結節に附着する部の外側に在り。

此部に分佈する神経、血管。

脛骨神経交通枝。

腓骨動脈の枝（後脛骨動脈の分枝）

鍼灸の應用。

癩癩、癩狂、下腿の神経痛、同麻痺、脚氣、膝關節炎。

灸十壯乃至十五壯。

（申

脉）禁灸穴。

足の外踝の直下にて白肉際に在り、短總趾伸筋の起始部にて凹陷する部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腓骨神経交通枝。

外跗骨動脈（足背動脈の枝）

鍼の應用。

脊髓勞、下肢の神経痛、頭痛、眩暈、下腿以下冷感あるもの、子宮痙攣。

金門

足の外踝の下方一寸許りにて跟骨と骰子骨との關節部に在り、短總趾伸筋腱上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

脛骨神経交通枝。

腓骨動脈穿行枝。

鍼灸の應用。

脊髓病に因る下肢の麻痺、癩癩、眩暈、衄血、霍亂、間歇熱。

灸十壯乃至十五壯。



京 骨

足の外側にて第五跗骨と骰子骨と關節する部の白肉際に在り、外轉小趾筋の外縁に當る。

此部に分佈する神經、血管。

腓 腸 神 經 (脛骨神經の枝)

外跗骨動脈 (足背動脈の枝)

鍼灸の應用。

腦充血、頭痛、眩暈、衄血、角膜翳、下肢の神經痛、腰神經痛、間歇熱。

灸七壯乃至十五壯。

束 骨

足背にて第五趾蹠關節の外側に在り、長總趾伸筋腱上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

脛骨神經交通枝。

外跗骨動脈の末枝 (足背動脈の枝)

鍼灸の應用。

結膜炎、耳鳴、衄血、癩、疔、項部の筋痙攣。

灸五壯乃至十壯。

通 谷

第五趾背側にて第一節と第二節と關節する部の外側に在り、長總趾伸筋腱の末端に當る。

此部に分佈する神經、血管。

腓 骨 神 經 (脛骨神經の枝)

趾背動脈 (足背動脈の分枝)



鍼灸の應用。

胃擴張、胃痛、消化不良、眩暈、頭重。

灸五壯乃至七壯。

至陰

第五趾外側の爪甲角に在り、長總趾伸筋腱の末端に當る。

此部に分佈する神經、血管。

腓腸神經（脛骨神經の枝）

趾背動脈（足背動脈の枝）

鍼灸の應用。

眼の諸疾患、急性鼻カタル、感冒、尿閉、失精、半身不隨、足蹠熱感あるもの。

灸五壯乃至七壯。

第八、足少陰腎經 二十七穴

湧泉

足蹠にて俗に云ふ「土フマツ」の中央に在り、外轉踇筋の内縁に當る。

此部に分佈する神經、血管。

内足蹠神經（脛骨神經の枝）

内足蹠動脈（足蹠動脈の枝）

鍼灸の應用。

腦震盪、急痾、心臟麻痺、腸出血。

灸は禁穴にあらざるも、救急の場合の他は用ふるることなし。

然谷

足の内側にて第一蹠骨と楔狀骨との關節部の後方白肉際に在り、公孫（踇趾内



側にて第一趾骨後端の白肉際)の後方にて外轉踴筋の内縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

内跗骨動脈(前脛骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

膀胱カタル、副睪丸炎、諸關節炎、小兒撮口風(初生兒破傷風)、咽頭ア

ブセス、扁桃腺炎、淋病、月經不調、婦人陰門搔痒症。

灸五壯乃至十壯。

### 照海

足の内踝の下方一寸に在り、但し内踝の中央より少しく前に偏し、外轉踴筋上にて脛骨神経の經路に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

後内踝動脈(後脛骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

半身不隨、腸疝痛、ヒステリー、花風病、婦人陰部搔痒症、月經不調、

淋病、癩病。

灸七壯乃至十壯。

### 太谿

足の内踝より後方凡そ五分にてアヒレス腱との間の凹陥部に在り、脛骨神経及び後脛骨動脈の經路に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経内下腿皮枝。

後内踝動脈(後脛骨動脈の枝)



鍼灸の應用。

脚氣、上肢及び下肢の厥冷、同部の麻痺、震顫、狹心症、心悸亢進症、胃痛、吃逆、便秘、嘔吐、口内炎、咽頭カタル、氣管支カタル、喘息、肋膜炎、中耳炎。  
灸は殆んど應用せざるを良とす。

水

泉 改正孔穴、下肢部の内。

足の内踝の後下方一寸にて外轉躡筋上に在り、跟骨結節の上前部に當り内足蹠神經の經路に相當す。

此部に分佈する神經、血管。

サフエナ神經内下腿皮枝。

後脛骨動脈の跟骨枝。

鍼灸の應用。

膀胱麻痺、子宮痙攣、子宮出血。

灸五壯乃至七壯。

太 鐘

足の内踝後縁の下方にて白肉際に在り、アヒレス腱内側の凹陷中に當る。

此部に分佈する神經、血管。

サフエナ神經の内下腿皮枝。

後脛骨動脈の跟骨枝。

鍼灸の應用。

食道狭窄、咽頭カタル、口内炎、氣管支カタル、喘息、便秘、腹

滿、膀胱麻痺、ヒステリー、鬱幽症。

灸五壯乃至七壯。

復 留



下腿内側にて足の内踝後縁より上方二寸、アヒレス腱と脛骨後縁との間に在り、内部は脛骨神経及び後脛骨動脈の経路に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経中下腿皮枝。

後脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

腹水、鼓脹、下肢の水腫、腎炎、淋病、膀胱カタル、腸疝痛、虚脱、脱汗。

灸十壯乃至二十壯。

交 信

下腿内側にて、足の内踝の直上二寸に在り、長總趾伸筋腱上にて復留（内踝の後縁より上方二寸）と並び其後方にて脛骨の後内縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

後脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

水腫、腹水、尿不利、淋病、月經不調、月經痛、腸カタル、便秘、下肢の神経痛。

灸十壯乃至二十壯。

築 賓

下腿内側にて足の内踝後縁の通りにて内踝の中央より上方五寸に在り、脛骨の後縁にて腓腸筋の内縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経中下腿皮枝。



後脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

腺病、腹部の癭、癲狂、腓腸瘰癧、下腿の神経痛。

灸十壯乃至二十壯。

陰 谷

膝を曲げて内側に生ずる約紋の尖端、即ち曲泉(大腿骨と脛骨と相接するところ)より内後方に在り、一筋を隔て、膝窩窩の中央なる委中と並び、半膜様筋及び半腱様筋の腱と縫匠筋腱との間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

閉鎖神経の皮枝。

内膝關節動脈。

鍼灸の應用。

腸疝痛、赤帶下、子宮内膜炎、喇叭管炎、陰萎、攝護腺炎、バルトリ  
ン氏腺炎、胸腹部の癭、陰門搔痒症、膝關節炎。  
灸十壯乃至二十壯。

〔横 骨〕 禁鍼穴。

耻骨上際にて白條の外方五分に在り、直股筋の停止部に當る、内部は膀胱を  
存す、但し女子は子宮に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

下腹壁動脈。

灸療の應用。

腹水、尿不利の諸症(但し膀胱疾患に因るもの)、淋病、精系瘰癧、下腹緊満、  
灸十壯乃至二十壯。



太

赫

改正孔穴、腹部第一側線の内。

下腹部にて中極（耻骨縫合の上際より腹部正中線を上方へ一寸の點）の傍ら五分に在り、即ち横骨（耻骨上縁の正中線即ち曲骨の傍ら五分）の上方一寸にて三稜腹筋上に當る、内部は膀胱及び子宮の上部に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

陰萎、失精、白帶下、子宮出血、其他總べて男女生殖器諸疾患、結膜炎、角膜炎。  
灸十壯乃至二十壯。

氣

穴

腹部正中線にて臍下三寸の點（關元）の傍ら五分に在り、直腹筋上にて内部は小腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

腸疝痛、月經不調、膀胱麻痺、腰背筋の攣痛。  
灸十壯乃至二十壯。

四

滿

改正孔穴、腹部第一側線の内。

腹部正中線にて臍下二寸の點（石門）の傍ら五分に在り、直腹筋上にて内部は小腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。



腸骨下腹神經。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

腸疝痛、大腸カタル、子宮痙攣、月經不調、婦人不妊症。  
灸十壯乃至二十壯。

中

注

腹部正中線にて臍下一寸の點(陰交)の傍ら分に在り、直腹筋上にて、内部は小腸を存す。

此部に分佈する神經、血管。

第十二肋間神經の前穿行枝。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

腸疝痛、便秘、月經不調、子宮周圍炎、結膜炎、角膜炎。

灸十壯乃至二十壯。

盲

俞

改正孔穴、腹部第一側線の内。

臍窩(神闕)の傍ら五分に在り、直腹筋上にて内部は小腸を存す。

此部に分佈する神經、血管。

肋間神經前穿行枝。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

腸疝痛、胃痛、黄疸、結膜充血、心悸亢進症、男子不妊症。  
灸十壯乃至二十壯。

商

曲

改正孔穴、腹部第一側線の内。

腹部正中線にて臍上二寸の點(下脘)の傍ら五分に在り、直腹筋上に内部は小腸



を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

腸疝痛、胃痙攣、黄疸、眼球充血、舌乾燥症、腹膜炎。

灸十壯乃至二十壯。

### 石

關 改正孔穴、腹部第一側線の内。

腹部正中線にて臍窩の上方三寸の點(建里)の傍ら分に在り、直腹筋上にて内部は小腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

胃痙攣、腸疝痛、膽石痛、腹膜炎、子宮痙攣。

灸十壯乃至二十壯。

### 陰

都 改正孔穴、腹部第一側線の内。

腹部正中線にて胸骨劍尖の下方三寸五分の點(中脘)の傍ら五分に在り、内部は胃を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

消化不良、胃の諸症、黄疸、嘔吐、顔面神経麻痺。



灸十壯乃至二十壯。

通

谷

改正孔穴、腹部第一側線の内。

腹部正中線にて胸骨剣状突起端の下方二寸五分の點(上院)の傍ら五分に在り、直腹筋上にて内部は胃の下部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

消化不良、嘔吐、胃カタル、胃擴張、言語澁滯、欠伸止まざるもの、顔面神経麻痺。

灸十壯乃至二十壯。

幽

門

改正孔穴、腹部第一側線の内。

腹部正中線にて胸骨剣状突起端の下方一寸五分の點(巨關)の傍ら五分に在り、直腹筋上にて内部は胃を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

食道狭窄、惡阻、胃痙攣。

灸十壯乃至二十壯。

步

廊

改正孔穴、胸部副胸骨線の内。

第六肋間にて胸骨の外縁、即ち正中線の外方二寸にて大胸筋の内縁に在り、内部は左は心臟、右は肝臓に接近し共に肺臓の下部に當る。

此部に分佈する神経、血管。



肋間神経の前皮枝。  
内乳動脈の分枝。

鍼灸の應用。

氣管支カタル、肋膜炎、咳嗽、呼吸不利、嘔吐、腹筋痙攣。  
灸は用ひざるを良とす。

神

封

改正孔穴、胸部副胸骨線の内。

前胸第五肋間にて胸骨の外縁、即ち正中線の外方二寸に在り、大胸筋の内縁に當る、内部は肝臓を存し、左は心臓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経の前穿行枝。

内乳動脈の枝。

鍼灸の應用。

肋間神経痛、狭心症、呼吸困難、肋膜炎。

灸は用ひざるを良とす。

壙

墟

改正孔穴、胸部副胸骨線ノ内。

前胸第四肋間にて胸骨の外縁、即ち正中線の外方二寸に在り、大胸筋の内縁にて内部は肺臓を存し、左は心臓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経の前穿行枝。

内乳動脈の分枝。

鍼灸の應用。

氣管支カタル、肋膜炎、肋間神経痛、嘔吐。  
灸は用ひざるを良とす。

神

藏

改正孔穴、胸部副胸骨線の内。



前胸第三肋間にて胸骨の外縁、即ち正中線の外方二寸に在り、大胸筋の内縁にて内部は肺臓を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経の前穿行枝。

内乳動脈の枝。

鍼灸の應用。

肋膜炎、気管支カタル、呼吸困難、嘔吐、肋間神経痛。

灸五壯乃至十壯。

或

中

改正孔穴、胸部副胸骨線の内。

前胸第二肋間にて胸骨の外縁、即ち正中線の外方二寸に在り、大胸筋の内縁にて内部は肺臓を存し、気管及び大動脈弓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経の前穿行枝。

前肋間動脈。

鍼灸の應用。

気管支カタル、肋膜炎、食道狭窄、呼吸困難、嘔吐。

灸五壯乃至十壯。

腋

府

改正孔穴、胸部副胸骨線の内。

前胸第一肋間にて胸骨の外縁、即ち正中線の外方二寸に在り、大胸筋の上内縁にて内部は肺臓を存し、気管及び大動脈弓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

内乳動脈の枝。

鍼灸の應用。



肋間神經痛、肋膜炎、氣管支カタル、肺氣腫、食道狹窄。  
灸五壯乃至十壯。

第九、手厥陰心包經 九 穴

天 池

前胸第四肋間にて乳線(正中線の外方四寸)の外方一寸に在り、大胸筋の下縁に當り、内部は肺臟を存す。

此部に分佈する神經、血管。

肋間神經の側穿行枝。

前 肋 間 動 脈。

鍼灸の應用。

肺氣腫、喘息、氣管支カタル、胸筋レウマチス。

灸七壯乃至十五壯。

天 泉

腋窩約紋の前端より曲澤(肘關節前面の約紋上にて二頭膊筋腱の内縁)に向て二寸に在り、上膊の前内側にて二頭膊筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

内上膊皮下神經。

上膊動脈の分枝。

鍼灸の應用。

胸筋及び背筋のレウマチス、同部の神經痛及び筋萎縮、心臟諸疾患、吃逆。

灸十壯乃至二十壯。

曲 澤



肘關節前面、即ち肘窩の中央にて二頭膊筋腱の内縁に在り、上膊動脈の經路に接近す。

此部に分佈する神經、血管。

中膊皮下神經。

上膊動脈の分枝。

鍼灸の應用。

上肢の筋攣痛、感冒、諸熱性病、心臟諸病。

灸は用ふるこゝなし。

郄門

前膊前面の中央にて腕關節約紋より上方五寸に在り、淺屈指筋腱の内側に當る。

此部に分佈する神經、血管。

内前膊皮下神經。

前骨間動脈(尺骨動脈の分枝)

鍼灸の應用。

ヒステリー、鬱幽症、吐血、下血、咯血、心囊炎。

灸十壯乃至三十壯。

間使

前膊前面の正中にて腕關節前面の約紋より上方三寸に在り、長掌筋の腱と内橈骨筋の腱との間に當る。

此部に分佈する神經、血管。

内前膊皮下神經の掌側枝。

前骨間動脈(尺骨動脈の分枝)

鍼灸の應用。



咽頭痙攣、癲狂、ヒステリー、失語症、鬱幽症、心悸亢進症、嘔吐、  
狭心症、月經不調、中風、手掌熱感あるもの、パセドウ氏病。  
灸十壯乃至二十壯。

内 關

前膊前面の正中にて腕關節約紋の中央より上方二寸即ち間使(約紋の上方三寸)の  
下方一寸に在り、長掌筋の腱と内橈骨筋の腱の間に當る。

此部に分佈する經、血管。

中膊皮下神經。

前骨間動脈(尺骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

上肢の麻痺、半身不隨、失神、筋萎縮、ヒステリー、眩暈。  
灸十壯乃至二十壯。

大 陵

腕關節前面の約紋中にて中央より少しく小指側に偏したる部に在り、長掌筋  
の腱の小指側に當る。

此部に分佈する神經、血管。

内前膊皮下神經の掌側枝。

腕 骨 掌 側 動 脈。

鍼灸の應用。

癲狂、ヒステリー、咽頭カタル、扁桃腺炎、腋窩腺炎、肋間神經痛、  
上肢濕疹、頭瘡。

灸十壯乃至二十壯。

但し皮下靜脈に注意すべし。

勞 宮



手掌の中央にて拇指球を境する約紋中、即ち第二、第三掌骨間の中央にて中指と示指を屈して其兩指頭端の間の當るところに在り、手掌腱膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管、

掌側指神経（正中神経の分枝）

淺掌動脈弓（尺骨動脈の枝）

鍼灸の應用。

中風、手掌熱感あるもの、口内臭氣あるもの、齒齦炎、口内炎、衄血、灸は多く用ふることをなし。

（中

衝）禁灸穴、

中指の拇指側爪甲角に在り、總指伸筋腱の附着部に當る。

此部に分佈する神経、血管、

尺骨神經手背枝。

背骨間動脈（尺骨動脈深掌弓の枝）

鍼の應用。

耳聾、角膜翳、上肢の神経痛、同麻痺、上肢筋レウマチス、頭痛、眩暈。

### 第十、手少陽三焦經

二十三穴

關

衝

無名指の小指側爪甲角に在り、總指伸筋腱の停止部に當る。

此部に分佈する神経、血管、

固有掌側指神経（尺骨神経の枝）

背骨間動脈（橈骨動脈の枝）

鍼灸の應用。



咽頭カタル、食道狭窄、扁桃腺炎、ヒステリー、ヒステリー性痙攣、  
上肢の神経痛、頭痛、癩癧。  
灸五壯乃至十壯。

腋門

環指第一節基底背面の小指側に偏するところに在り、總指伸筋腱上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

尺骨神経の手背枝。

背骨間動脈(橈骨動脈の末枝)

鍼灸の應用。

半身不隨、上肢の神経痛、齲齒、齒齦炎、頭痛、角膜翳。  
灸五壯乃至十壯。

但し皮下靜脈に注意すべし。

中渚

手背にて環指と小指との間、即ち手掌關節の後縁に在り、總指伸筋の腱上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

尺骨神経の手背枝。

背骨間動脈(橈骨動脈の末枝)

鍼灸の應用。

耳聾、角膜翳、上肢の神経痛、同麻痺、上肢の筋レウマチス、頭痛、眩暈。

灸五壯乃至十壯。

但し皮下靜脈に注意すべし。

(陽)

池) 禁灸穴。改正孔穴、上肢部の内。



腕關節背側の約紋中にて小指側に偏したるところ即ち尺骨端に在り、總指伸筋腱の小指側に當る。

此部に分佈する神經、血管。

尺骨神經の手背枝。

腕骨背側動脈(尺骨動脈の枝)

鍼の應用。

上肢の神經痛、上肢の關節ロイマチス、上肢の筋萎縮、感冒。

外 關

前膊背側にて腕關節横紋中の尺骨端(陽池)より上方二寸に在り、外尺骨筋の腱と總指伸筋の腱との間に當る。

此部に分佈する神經、血管。

前膊背側皮下神經(橈骨神經の枝)

後骨間動脈(尺骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

中風、上肢の神經痛、齒痛、重聽。

灸十壯乃至二十壯。

但し皮下靜脈に注意すべし。

支

溝 改正孔穴、上肢部の内。

前膊背側にて腕關節約紋の尺骨側(陽池)より上方三寸に在り、總指伸筋腱の尺骨側に當る。

此部に分佈する神經、血管。

内上膊皮下神經の尺骨枝。

後骨間動脈(尺骨動脈の枝)

鍼灸の應用。



胸筋レウマチス、肋間神経痛、三叉神経痛、顔面神経麻痺、濕疹、一般の皮膚病、不妊症。  
灸十壯乃至二十壯。

會 宗

前膊背側にて腕關節約紋の尺骨側(陽池)より上方三寸、即ち支溝と並び其れより橈骨側に一寸距る點に在り、總指伸筋を距て、支溝と並び固有小指伸筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

前膊背側皮下神経(橈骨神経の枝)

後骨間動脈(尺骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

肩胛部蜂窠織炎並に丹毒、胸筋レウマチス、筋萎縮、球麻痺、舞踏病、

アテトリーゼ、重聽。

灸十壯乃至二十壯。

〔三 陽 絡〕 禁鍼穴。

前膊背側にて腕骨約紋の尺骨側(陽池)より上方四寸に在り、總指伸筋と固有小指筋との間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

内前膊皮下神経。

後骨間動脈(尺骨動脈の枝)

灸療の應用。

中風、上肢の麻痺、舌筋麻痺、耳聾。

灸十壯乃至二十壯。

四

瀆 改正孔穴、上肢部の内。



前膊背側にて尺骨の外縁肘突起(鷹嘴突起)の端より下方五寸に在り、固有小指伸筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

内上膊皮下神経の尺骨枝。

後骨間動脈の尺骨枝。

鍼灸の應用。

重聽、舌筋麻痺、下齒の齒痛、上肢の神経痛、同麻痺、筋萎縮。

灸十壯乃至二十壯。

天

井 改正孔穴、上肢部の内。

上膊後面の下部にて尺骨鷹嘴突起の尖端より直上一寸に在り、三頭膊筋の停止部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

内側上膊皮下神経。

深在膊動脈。

鍼灸の應用。

上肢の神経痛、上肢の震顫、咽頭カタル、鼻の諸疾患、頸部及び顔面の皮下蜂窠織炎、丹毒、癲狂、三叉神経痛。

灸十壯乃至三十壯。

清

冷 淵 改正孔穴、上肢部の内。

上膊後面の下部にて尺骨鷹嘴突起の尖端より上方二寸に在り、三頭膊筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

内上膊皮下神経。

深在膊動脈(上膊動脈の枝)



鍼灸の應用。

上肢の神経痛、上肢及び肩胛部の筋麻痺、肩胛筋萎縮。

灸十壯乃至二十壯。

消

灤 改正孔穴、上肢部の内。

上膊後外側の中央にて三角筋停止部の稍後縁に當り三頭膊筋上に在り、橈骨神経の経路の邊に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

後膊皮下神経（腋窩神経の枝）

橈側副動脈（深在膊動脈の終枝）

鍼灸の應用。

上膊の神経痛、小兒麻痺、肩胛筋麻痺、肩胛筋萎縮、肩胛筋の攣痛、

頭痛、癩癩。

灸十壯乃至二十壯。

臑

會

上膊後側の上部にて消灤（上膊後側の中央にて三角筋停止部の稍後下際）の上方三寸に在り、三角筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

後膊皮下神経（腋窩神経の枝）

後廻旋上膊動脈。

鍼灸の應用。

肩胛部の神経痛、肩胛筋萎縮、上肢の麻痺、項筋及び頸筋の麻痺。

灸十壯乃至二十壯。

肩

髃

肩胛關節の後側にて肩胛骨肩峰突起の下縁に在り、三角筋上に當る。



此部に分佈する神経、血管、

鎖骨上神経。

後廻旋上膊動脈(腋窩動脈の枝)

鍼灸の應用。

肩胛筋の麻痺、肩胛部の神経痛、上肢の筋萎縮、半身不隨、三叉神経痛。  
灸十壯乃至二十壯。

天 膠

肩胛骨肩峰突起と鎖骨外端と關節する部の直後に在り、僧帽筋の外上縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

鎖骨上神経。

横肩胛動脈(甲狀項軸の枝)

鍼灸の應用。

腦振盪、假死、肩胛部の拘攣、耳の諸症。

灸十壯乃至二十壯。

(天 臑) 禁灸穴。

颞颥骨乳嘴突起下端の後方にて胸鎖乳嘴筋の後縁に在り。

此部に分佈する神経、血管。

大耳神経。

耳後動脈(外頸動脈の後枝)

鍼の應用。

腦充血、齲齒、耳聾、項筋痙攣。

翳

風 改正孔穴、耳下部の内。

耳垂と颞颥骨乳嘴突起との間に生ずる凹陷部の中央にて耳下腺部に在り、顔



面神經、迷走神經、副神經、三叉神經及び頸動脈、頸靜脈等の經路に接近す。

此部に分佈する神經、血管。

大耳神經。

耳後動脈(外頸動脈の後枝)

鍼灸の應用。

耳下腺炎、中耳炎、外聽道癰腫、耳軟骨膜炎、耳聾、顔面神經麻痺、

三叉神經痛。

灸五壯乃至十壯。

但の重要な血管、神經に接近するを以つて成る可く用ひざるを良とす。

〔瘰〕

脉] 禁鍼穴。

耳後にて耳翼の根部、乳嘴突起の前縁に在り、耳後筋上に當り頸靜脈の經路に接近す。

或は角孫(耳翼を前に折り曲げ其上端の當るところ)と翳風(耳垂と乳嘴突起との間に生ずる凹陷中)とを連結する一線を書き、其線上にて上より三分の一の處を顛息、三分の二の處を瘰脉とす。

此部に分佈する神經、血管。

大耳神經(頸神經叢の皮枝)

耳後動脈(外頸動脈の後枝)

灸療の應用。

頭痛、耳鳴、小兒瘰癧。

灸五壯乃至十壯。

但しなるべく用ひざるを良とす。

〔顛〕

息] 禁鍼穴。

耳後にて耳孔の稍上部耳後筋上に在り、即ち翳風(耳垂と乳嘴突起との間に生ずる



四陷中)と角孫(耳翼を前に折り曲げて其上端の當るところ)とを結ぶ一線を畫し、其上  
三分の一の點に在り、颞顳骨乳嘴突起の上部にて其内部は内耳に接近す。

此部に分佈する神經、血管。

小後頭神經。

耳後動脈(外頭動脈の後枝)

灸療の應用。

頭痛、小兒急癇、耳鳴、氣管支カタル。

灸五壯乃至十壯。

〔角

孫〕 禁鍼穴。

耳翼を後方より前に折り翻して其上部尖端に當るところ、即ち耳翼直上に在  
り、颞顳筋後縁に當る。

此部に分佈する神經、血管。

淺颞顳神經(三叉神經第三枝下頸神經の末枝)

耳後動脈(外頭動脈の後枝)

灸療の應用。

齲齒、齒齦炎、口内炎、結膜炎、頭痛、頭重。

灸は殆んど用ふるることなし。

和

體

耳前発髮(はるまきがり)の下端にて顴骨弓の下縁と交はるところに在り、耳前筋  
上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

耳 颞 顳 神 經(三叉神經第一枝の枝)

淺颞顳動脈の分枝。

鍼灸の應用。



耳鳴、頭痛、牙間緊急、鼻カタル、顔面神経麻痺、頸部及び顔面の  
蜂窠織炎。

灸五壯乃至七壯。

耳門

耳珠の前にて下顎骨小頭の後縁に在り、耳前筋の下縁にて耳下腺上に當り、  
顔面神経経路の邊に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

耳頰顛神経(三叉神経第三枝の枝)

耳前動脈(外頸動脈の内枝)

鍼灸の應用。

耳聾、耳漏、齲齒、上齒の神経痛。

灸五壯乃至十壯。

但し應用に注意すべし。

(紫竹空) 禁灸穴。改正孔穴、顛顛部の内。

眉毛外端の凹陷部に在り、前頭筋起始部の外縁に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

前頭神経(三叉神経第一枝の分枝)

上眼窠動脈。

鍼の應用。

結膜炎、角膜炎、頭痛、眩暈、齒痛。

第十一、足少陽膽經 四十三穴

瞳子膠

外眦を外方に距る五分に在り、眼輪匠筋上に當る。



此部に分佈する神経、血管。

涙腺 神経 (三叉神経第一枝の枝) (外皮)

顔面神経の頰骨枝 (筋)

頰骨眼窠動脈。

鍼灸の應用。

結膜炎、角膜炎、白内障、其他總ての眼疾病。

灸は用ふるこゝなし。

聽

會 改正孔穴、耳前部の内。

耳珠の前にて下顎骨關節頭の後縁に在り、口を開けば小凹陥を生ずるところに當る。

此部に分佈する神経、血管。

耳頰顛神經 (三叉神経第三枝の分枝)

耳前動脈。

鍼灸の應用。

耳鳴、耳聾、下顎關節炎。

〔上〕

關 禁鍼穴。改正孔穴、耳前部の内。

外眦と耳前髮際との中央にて頰骨弓の上際に在り、頰顛筋の前縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

淺頰顛神經 (三叉神経第三枝の分枝)

耳前動脈。

灸療の應用。

頭痛、眩暈、耳鳴、重聽、顔面神経麻痺、半身不隨、白内障。

頰 脈

頰顛 (こめかみ) にて耳孔の前の通りより上方二寸の髮際に在り、頰顛筋上に當



る、即ち懸顱、懸釐と同一の一系に在り。

此部に分佈する神経、血管。

浅顱顱神经(外皮)

顔面神经の顱顱枝(筋)

浅顱顱動脈の分枝。

鍼灸の應用。

頭痛、眩暈、耳鳴、顔面神経麻痺。

灸は應用することなし。

### 懸顱

顱骨顱顱突起の上方にて顱顱(こめかみ)の中央前髪際に在り、顱顱筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

浅顱顱神经(三叉神経第三枝の枝耳顱顱神经の分枝)

浅顱顱動脈。  
鍼灸の應用。  
腦充血、三叉神経痛、頭痛、齒痛、鼻カタル。  
灸は應用することなし。

### 懸釐

顱骨顱顱突起の上縁にて顱顱(こめかみ)の下部前髪際に在り、懸顱より五分下方にて顱顱筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

浅顱顱神经(三叉神経第三枝の枝、耳顱顱神经の分枝)

浅顱顱動脈。

鍼灸の應用。

腦充血、三叉神経痛、偏頭痛、齒痛、感冒。



灸療は用ふることなし。

曲 鬢 改正孔穴、顛顛部の内。

耳前にて顴骨弓の上方一寸許りの髮際在り、通常耳上の髮際と云ひ、顛顛筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

淺顛顛神経（三叉神経第三枝の分枝）

淺顛顛動脈。

鍼灸の應用。

頭痛、嘔吐、顛顛部の神経痛、小兒痙攣。

灸五壯乃至十壯。

率 谷 改正孔穴、顛顛部の内。

顛顛結節の側方一寸に在り、或は曰ふ角孫（耳翼を後ろより前に翻へして其上部尖端

の當るところ）の上方一寸五分の點より三分前に在り、顛顛筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

淺顛顛神経（三叉神経第三枝の分枝）

淺顛顛動脈。

鍼灸の應用。

腦充血、小兒麻痺。

灸療は應用することなし。

天 衝

耳翼上根部の上方、即ち耳上の髮際を入ること二寸の點の前方三分に在り、顛顛筋の後縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

淺顛顛神経（三叉神経第三枝の分枝、耳顛顛神経の枝）



淺顳動脈の分枝。

鍼灸の應用。

顳顬の神経痛、頭痛、癩痢。

灸應用することなし。

浮 白

耳後にて耳垂の高さの髮際より直上に入ること一寸、即ち乳嘴突起根部の上方に在り、耳後筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

小後頭神経。

耳後動脈。

鍼灸の應用。

耳聾、耳漏、言語障碍、頭痛、頸部の癱及び疔、頸部蜂窠織炎、上肢の

麻痺。

灸應用することなし。

竅 陰

顳顬骨乳嘴突起の後上方にて後頭骨に聯接するところに在り、即ち耳孔と竝ぶ處にて上斜頭筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

小後頭神経。

耳後動脈。

鍼灸の應用。

腦充血、三叉神経痛、四肢の痙攣、項背部の癱。

灸五壯乃至十壯。

完 骨



耳後の髮際を入ること四分にして顛顛骨乳嘴突起の下端と竝ぶところに在り、  
胸鎖乳嘴筋の停止部に當る。

此部に分佈する神經、血管。

小後頭神經。

耳後動脈。

鍼灸の應用。

扁桃腺炎、齒齦炎、耳下腺炎、腦充血、癩痢、顔面神經麻痺、舌筋麻痺。  
灸十壯乃至十五壯。

本 神

頭部正中線(矢狀線)の傍ら三寸にて前髮際を入る四分に在り、前頭筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

前 頭 神 經 (三又神經第一枝の枝)

淺顛顛動脈の前枝。

鍼灸の應用。

頭痛、癩痢、眩暈、腦充血。  
灸應用することなし。

陽

白 改正孔穴、額部の内。

前額にて眉弓の中央より上方一寸、即ち眼を直視するとき瞳孔の直上に當る  
ところに當り、前頭筋上に存す。

此部に分佈する神經、血管。

上眼窠神經 (三又神經第一枝の分枝)

上眼窠動脈 (内頸動脈の枝)

鍼灸の應用。

頭痛、眼の諸疾患、三又神經痛。



灸應用することなし。

(臨)

泣) 禁灸穴、改正孔穴、頭部第二側線の内。

前頭にて頭部矢狀線の傍ら二寸前髮際を入れる五分に在り、即ち神庭(矢狀線上にて前髮際を入れる五分)と並びて其外方に當り前頭筋上に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

上眼窠神経(三叉神経第一枝の枝)

上眼窠動脈(内頸動脈の枝)

鍼の應用。

頭痛、眩暈、鼻閉塞(鼻カッター)、耳聾、一般の眼病。

目窓

眼を直視して瞳孔の直上、即ち矢狀線の傍ら二寸二分半にて前髮際を入れる一寸五分に在り、帽狀腱膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

前頭神経。

淺颞顛動脈の前枝。

鍼灸の應用。

弱視、結膜炎、角膜翳、重聽、鼻孔閉塞、頭痛、齒齦炎。

灸應用することなし。

正

營 改正孔穴、頭部第二側線の内。

前髮際を入れること二寸五分にて頭部矢狀線の傍ら二寸二分半に在り、即ち臨泣(矢狀線の傍ら二寸二分半にて前髮際を入れる五分)の後方二寸にて帽狀腱膜上に當り、冠狀縫合の外部に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

上眼窠神経(三叉神経第一枝の分枝)



淺颞動脈の前枝。

鍼灸の應用。

頭痛、耳聾、弱視、眼球疼痛、結膜炎。

灸は應用することなし。

〔承〕

〔靈〕 禁鍼穴、改正孔穴、頭部第二側線の内

顛頂結節上にて矢狀線の傍ら二寸二分半、前髮際を入ること四寸に在り、即ち正營の後方一寸五分にて皮下は帽狀腱膜を存す。

此部に分佈する神經、血管。

前 頭 神 經。

淺颞動脈の後枝。

灸療の應用。

頭痛、眩暈、眼球疼痛、鼻カタル、耳聾。

灸應用することなし。

腦

空 改正孔穴、頭部第二側線の内。

頭部矢狀線の傍ら二寸二分半にて乳嘴突起の直上に在り、外後頭結節と顛頂結節とを連合する其中間にて内部は帽狀腱膜に當る。

此部に分佈する神經、血管。

耳颞神經（三叉神經第三枝の分枝）

後 頭 動 脈。

鍼灸の應用。

頭痛、眩暈、鼻カタル、耳聾、心悸亢進症、項筋痙攣。

灸應用することなし。

風

池 改正孔穴、頭部第二側線の内。

項部の髮際にて耳垂の下縁と同じ高さに在り、僧帽筋と胸鎖乳嘴筋との間に



當る。

此部に分佈する神経、血管。

小後頭神経。

後頭動脈の枝。

鍼灸の應用。

項背筋の攣急、頭痛、眩暈、耳鳴、衄血、吃逆、弱視、結膜炎、脚氣衝心、マラリア、後頭神経痛。

灸五壯乃至十五壯。

### 肩井

鎖骨の中央より上方にて肩の最も高きところに在り、僧帽筋の前縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

鎖骨上神経。

淺在項動脈(甲狀項軸の枝)

鍼灸の應用。

瘰癧、頭重、脚氣衝心、頸筋及び肩胛筋の攣痛、呼吸困難、心臟麻痺、ヒステリー球、嚔下困難、腰痛、産後出血、聲帶麻痺。

灸十壯乃至三十壯。

但し鍼深く刺すを禁す。

日 月

側腹部にて期門(胸部乳線にて第七肋間に在り)の下方一寸五分に在り。

或は期門の下方五分、又は一寸とも云ふ説あり。

外斜腹筋上に當る、但し期門の下五分、或は一寸とする時は前大鋸筋上となる。

此部に分佈する神経、血管。



肋間神經側穿行枝。  
内乳動脈の枝。

鍼灸の應用。

癲狂、ヒステリー、心窩苦悶。

灸十壯乃至二十壯。

輓筋

側胸部第五肋間にて淵腋（腋窩前約紋の尖端より下方三寸）と並び胸骨の方へ一寸距たるところに在り、前大鋸筋上にて内部は肺臓を存す、但し左は心臓に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神經側穿行枝。

後肋間動脈。

鍼灸の應用。

肋間神經痛、呼吸困難、嘔吐。

或は禁灸穴とする説あり。

應用することなし。

(淵)

腋（禁灸穴）

側胸部第五肋間にて極泉（上肢を垂げて腋窩に生ずる約紋の尖端）の下方に在り、前大鋸筋上にて内部は肺臓を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神經側穿行枝。

後肋間動脈。

鍼の應用。

肋間神經痛、氣管支カタル、肋膜炎。



京 門

第十二肋骨尖端の下縁にて章門（第十一肋骨尖端より少しく下方）の通りより後方一寸に在り、潤背筋上にて内部は結腸に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

後肋間動脈。

鍼灸の應用。

消化不良、黄疸、肝臓諸疾患、胃カタルル、嘔吐、盲腸炎、腸寄生虫、

腰背筋の疼痛。

灸十壯乃至二十壯。

帶 脉

側腹部にて第十一肋骨尖端より下方一寸八分に在り。

又曰ふ臍（神闕）の上方二分の點より傍ら七寸五分に在り。外科斜腹筋上に當り、内部は大腸（右は上行結腸、左は下行結腸）を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

淺廻旋腸骨動脈。

鍼灸の應用。

消化不良、胃瘕攣、下痢、腸疝痛、月經不調、腰痛諸症、瘰癧丸炎、精系瘕攣。

灸十壯乃至二十壯。

五

樞 改正孔穴、側腹部の内。

第十一肋骨の前下端（章門）より下方四寸八分に在り、腸骨前上棘の上部にて外斜腹筋の下縁に當り、内部は結腸を存す。



此部に分佈する神経、血管。

腸骨鼠蹊神経。

淺廻旋腸骨動脈。

鍼灸の應用。

急性胃腸カタル、慢性胃カタル、水腫、子宮内膜炎、不妊症、精

系痙攣、腰痛。

灸十壯乃至二十壯。

維道

側腹部の下部にて腸骨前上棘の稍上方外斜腹筋上に在り、即ち五樞(第十一肋骨の前下端、即ち章門の下方五寸に)の下方五分の點に當る、内部は結腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨鼠蹊神経。

淺廻旋腸骨動脈。

鍼灸の應用。

腸疝痛、腰部神経痛、下肢の水腫、副睪丸炎。

灸十壯乃至二十壯。

居膠

腸骨前上棘の上前方、即ち章門(第十一肋骨尖端の下方少しく内に向つて五分)の下方六寸三分に在り、外斜腹筋の外縁に當る、内部は右は盲腸部、左はS字狀部に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

上腎神経。

淺廻旋腸骨動脈。

鍼灸の應用。



腰神經痛、腰痛、下腹攣痛。  
灸十壯乃至二十壯。

環

跳 改正孔穴、下肢部の内。

膝を屈して大腿を腹壁に接するとき生ずる股關節部約紋の外端に在り、即ち大腿骨大轉子と髌臼關節上縁との間の後部にて大臀筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

外股皮下神經。

淺廻旋腸骨動脈。

鍼灸の應用。

腰神經痛、半身不隨、脚氣、大腿蜂窠織炎、股關節炎、大腿筋麻痺、  
大腿筋萎縮、大腿筋レウマチス、急性發疹諸症。  
灸十壯乃至三十壯。

中

瀆

改正孔穴、下肢部の内。

大腿の外側にて大腿骨の下端(即ち外上髌)の上方五寸に在り四頭股筋の外縁に當る、或は上肢を體側に正しく付けて直立し、中指尖端の當るところと云ふ説あり。

此部に分佈する神經、血管。

外股皮下神經。

外廻旋股動脈。

鍼灸の應用。

大腿の神經痛、脚氣、尿不利の諸症、下肢の麻痺、下肢の筋レウマチス、半身不隨、膝關節炎。

灸十壯乃至三十壯。

(陽)

關) 兼灸穴。



大腿骨外髁の上方、即ち膝關節の外前側にて四頭股筋腱の外縁に在り。

此部に分佈する神経、血管、

外股皮下神経。

上外膝關節動脈(膝關節動脈の枝)

鍼の應用。

膝關節レウマチス、下肢の神経痛、同麻痺、半身不隨。

陽 陵 泉 改正孔穴、下肢の内。

膝を屈して外側に生ずる約紋尖端の下方一寸、即ち腓骨小頭の前縁に在り、長腓骨筋の起始部に當る。

此部に分佈する神経、血管、

外腓腸皮下神経。

後返廻脛骨動脈。

鍼灸の應用。

脚氣、膝關節レウマチス、筋萎縮、半身不隨、舞踏病、アテトーゼ。

灸十壯乃至二十壯。

陽 交

足關節外踝の上縁より上方七寸に在り、即ち外丘(長總趾伸筋の後縁)と並びて其前に當り、長總趾伸筋上に相當す。

此部に分佈する神経、血管、

外腓腸皮下神経。

前脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

下腿の神経痛、同麻痺、癲狂、肋膜炎、氣管支カタル、筋萎縮。  
灸十壯乃至二十壯。



外 丘

下腿外側にて外踝の上縁より直上七寸に在り、陽交（長總趾伸筋の上）と並び其後に當り、長總趾伸筋の後縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

外腓腸皮下神経。

前脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

下肢の神経痛、同麻痺の諸疾患、脚氣、下腿の蜂窠織炎、足關節炎、

下腿濕疹。

灸十壯乃至二十壯。

光 明

下腿外側にて外踝の上際より上方五寸に在り、腓骨前縁にて長總趾伸筋の後

縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

外腓腸皮下神経。

前脛骨動脈の分枝。

鍼灸の應用。

眼の諸疾患、下肢の神経痛、下腿の麻痺、噪狂。

灸十壯乃至二十壯。

陽 輔

下腿外側にて外踝の上方四寸の點より三分許り前に偏するところ、即ち腓骨後縁に在り、長總趾伸筋の後縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

外腓腸皮下神経。



腓骨動脈の前枝。

鍼灸の應用。

下腿の麻痺、下腿の神経痛、下肢の厥冷するもの、脚氣、下肢の關節  
レウマチス。

灸十壯乃至二十壯。

### 懸

鐘 改正孔穴、下肢部の内。

下腿外側にて外踝の上方三寸に在り、腓骨の前縁にて短腓骨筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

外腓骨皮下神経。

腓骨穿行動脈(腓骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

脚氣、消化不良、腸疝痛、鼻カタル、扁桃腺炎、衄血、吃逆。

灸十壯乃至三十壯。

### 丘 墟

足の外踝前縁の下端にて稍凹陷するところに在り、長總趾伸筋腱上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

淺腓骨神経(腓骨神経の枝)

外跗骨動脈(足背動脈の枝)

鍼灸の應用。

肋膜炎、腓腸痙攣、股關節炎、坐骨神経痛、頸部及び腋窩部の蜂巢織  
炎並に淋巴腺炎、凍傷。

灸十壯乃至十五壯。

### 臨

泣

足背にて第四跗骨後端の外縁、即ち第四、第五跗骨間後端の凹陷部に在り、長



及び短總趾伸筋腱上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腓骨神経交通枝。

背骨間動脈(後脛骨動脈の枝)

鍼灸の應用。

ヒステリー、月經不調、腺病、頭痛、頸部蜂窩織炎、乳腺炎、乳癌。

灸七壯乃至十壯。

(地 五 會) 兼灸穴。

第四、第五蹠骨間の前部に在り、即ち俠谿(第四趾と第五趾との分岐部にて第四趾に偏するところ)の上方一寸にて長及び短總趾伸筋腱上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

脛骨神経の交通枝。

背骨間動脈(足背動脈の枝)

鍼の應用。

足部の麻痺、跗骨間關節炎、耳聾、肋間神経痛、乳腺炎。

俠 谿

足背第四趾と第五趾との分岐部にて第四趾根部の外側に在り、短及び長總趾伸筋腱上に當る。

此部に分佈する神経、血管、

腓腸神経。

背骨間動脈。

鍼灸の應用。

脊髓病に因る下肢の麻痺、癱瘓、眩暈、衄血、霍亂、間歇熱。  
灸七壯乃至十壯。



竅 陰

第四趾爪甲角の外側に在り、短及び長總趾伸筋腱の末端に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腓腸神経。

背骨間動脈(足蹠動脈の枝)

鍼灸の應用。

腓腸痙攣、下肢の麻痺、頭痛、耳聾、肋膜炎。

灸五壯乃至七壯。

第十二、足厥陰肝經 十五穴

大 敦

踰趾背面の小趾側にて爪甲角を距る一分許りに在り、短伸踰筋及び長伸踰筋

腱の末端に當る。

此部に分佈する神経、血管。

深腓骨神経の枝。

第一背骨間動脈。

鍼灸の應用。

遺尿、副睪丸炎、精系痙攣、腸疝痛、腹膜炎、淋病、龜頭の神経痛、

腔痙攣、日射病。

灸五壯乃至七壯。

行 間

足背にて踰趾と次趾との分岐部にて踰趾に偏するところに在り、即ち踰趾第一節基底の外側にて短伸踰筋腱の外側に當る。

此部に分佈する神経、血管。



深腓骨神經（腓骨神經の枝）

第一背骨間動脈。

鍼灸の應用。

狭心症、噪狂、淋病、遺尿、尿崩、子宮諸疾患、月經過多、下肢の瘧、小兒麻痺。

灸七壯乃至十壯。

太衝

足背にて第一蹠骨と第二蹠骨との間の後端に在り短伸躡筋上にて地五會（第四第五蹠骨間の前端）と竝ぶ。

此部に分佈する神經、血管。

淺腓骨神經（腓骨神經の枝）

足背動脈の分枝。

鍼灸の應用。

腸疝痛、肋膜炎、胃出血、腸出血、腸カタル、便秘、尿閉、精系瘧、遺尿、口内炎、下肢の麻痺、脊髄勞、腺病、白帶下、子宮出血、陣痛微弱。

灸七壯乃至十壯。

中封

足の内踝の前下方にて足關節約紋中に在り、前脛骨筋腱の外側に當る。

此部に分佈する神經、血管。

淺腓骨神經（腓骨神經の枝）

内跗骨動脈。

鍼灸の應用。

脊髄勞、腸疝痛、鼓脹、淋病、精系瘧、膀胱カタル、失精、腸カ



タール、消化不良。  
灸十壯乃至十五壯。

蠶溝

内踝の上際より上方五寸にて脛骨の内縁に在り、比目魚筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

後脛骨動脈の枝。

鍼灸の應用。

月經不調、子宮内膜炎、ヒステリー、尿閉、包皮灸、龜頭炎、ヒステ  
リー球、下肢の麻痺、狭心症。  
灸十壯乃至二十壯。

中都

下腿内側にて内踝の上方七寸に在り、脛骨内縁にて比目魚筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

サフエナ神経の中下腿皮枝。

後脛骨動脈の枝。

鍼灸の應用。

腸疝痛、産後惡露多きもの、子宮出血、下肢厥冷するもの。  
灸十壯乃至二十壯。

膝關

膝關節内側の下部にて脛骨關節頭の内下縁に在り、即ち膝を曲げて内側に生  
ずる約紋の前端に假點し、夫れより下方一寸の點に當る。

此部に分佈する神経、血管。

閉鎖神経皮枝。



膝關節動脈。

鍼灸の應用。

膝關節レウマチス、咽喉カタル。

灸十壯乃至十五壯。

### 曲泉

脛骨内關節髁の下際、即ち膝を屈して内側に生ずる約紋の尖端に在り、大腿骨と脛骨と相接する處にて半腱様筋及び半膜様筋の停止部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

閉鎖神経の皮枝。

内膝關節動脈。

鍼灸の應用。

癲狂、衄血、精系痙攣、副睪丸炎、遺精、婦人陰部瘙癢症、下肢の麻

痺、下肢の神経痛、下肢の諸關節炎。  
灸應用せざるを良とす。

### 陰包

大腿の前内側にて膝を屈して内側に生ずる約紋の尖端、即ち曲泉の上方四寸に在り、四頭股筋と内轉股筋との間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

閉鎖神経の皮枝。

上膝關節動脈。

鍼灸の應用。

腰部疼痛の諸疾患、大腿の神経痛、大腿筋萎縮、膝關節炎、便秘、遺尿、月經不調、包皮炎。  
灸十壯乃至二十壯。



五 里

大腿の後内側にて鼠蹊溝中に在り、即ち氣衝(鼠蹊溝中にて正中線を距る二寸)より大腿内側と陰部との間の皺溝を三寸下るところにて、長内轉股筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨鼠蹊神経。

外陰部動脈。

鍼灸の應用。

腸疝痛、膀胱麻痺、鼠蹊腺炎、感冒。

灸七壯乃至十壯。

陰

廉 改正孔穴、下肢部の内。

大腿後内側にて鼠蹊溝中に在り、即ち氣衝(鼠蹊溝中にて正中線の傍ら二寸)より陰部と大腿内側との間の皺溝を二寸下るところに在り、長内轉股筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

外精系神経及び腸骨鼠蹊神経。

内 廻 旋 股 動 脈。

鍼灸の應用。

婦人不妊症、下腹緊滿、下腹攣痛。

灸七壯乃至十壯。

〔羊

矢〕 禁鍼穴。

耻骨上縁にて鼠蹊溝中に在り、即ち氣衝(鼠蹊溝中にて正中線を距る二寸)の外上方一寸にてプーバルト氏靭帯の下際、外斜腹筋の停止部に當り、精系の通路に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

腰 鼠 蹊 神 經 (陰部股神経の枝)



外陰部動脈の枝（股動脈の枝）

灸療の應用。

精系瘰癧、精系炎、副睪丸炎、腸疝痛、下腹撃痛。

灸七壯乃至十壯。

〔急 脉〕 禁鍼灸穴。

鼠蹊溝中にて陰莖根の外方に在り、即ち正中線を距る二寸五分にて耻骨筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

腰鼠蹊神經（陰部股神經の枝）

外陰部動脈（股動脈の枝）

鍼灸の應用。

鍼灸の禁穴とするも次の如き疾病に應用することあり。

精系瘰癧、睪丸炎、陰萎、バルトリン氏腺炎。

脇

膠

改正孔穴、側腹部の内。

第十一肋骨尖端の下際より少しく内に向て五分許りに在り、外斜腹筋上に當り、内部は結腸を存す、但し右は肝臓、左は脾臓に接近す。

此部に分佈する神經、血管。

肋間神經側穿行枝。

後肋間動脈。

鍼灸の應用。

心悸亢進、心窩苦悶、呼吸困難、嘔吐、消化不良、黃疸、小兒吐乳、

血尿、膀胱カタル、氣管支カタル、肋膜炎、舞踏病。

灸十壯乃至二十壯。

期

門



前胸部第七肋間にて乳線に在り、大胸筋上に相當し、内部は右は肝臓、左は胃を存す。

三六

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経側穿行枝。

肋間動脈。

鍼灸の應用。

霍亂、胃腸カタル、黃疸、狹心症、喘息、肋間神経痛、産後の諸疾患。灸應用することなし。

### 第十三、督脈 經 三十穴

長

強 改正孔穴、背部正中線の内。

尾閭骨の下際にて、外肛門括約筋の後縁に在り。

此部に分佈する神経、血管。

尾閭骨神経。

下痔動脈(内陰部動脈の枝)

鍼灸の應用。

痔の諸症、脱肛、肛門周圍炎の初期、下痢、淋病、腰部神経痛、癲狂。灸十壯乃至三十壯。

腰

俞

腰部正中線にて第四薦骨椎の下際、即ち薦骨管破裂の部に在り、腰背筋膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

薦骨神経の後枝。

側薦骨動脈。



鍼灸の應用。

腰痛、月經不調、子宮の諸疾患、下肢の厥冷する諸症、淋病。  
灸七壯乃至十五壯。

陽 關

第十七椎即ち第四腰椎棘狀突起の下際に在り、腰背筋膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腰椎神經の後枝。

腰動脈の背枝。

鍼灸の應用。

腸疝痛、腰痛の諸症、慢性腸カタル、臀部以下の筋炎、坐骨神經痛。  
灸七壯乃至十五壯。

下 極

第十六椎即ち第三腰椎棘狀突起の下際に在り、腰背筋膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腰椎神經の後枝。

腰動脈の背枝。

鍼灸の應用。

子宮諸症、腸の諸疾患、遺尿、失精、急痲、腦膜炎、腰痛。  
灸七壯乃至十五壯。

命 門 改正孔穴、背部正中線の内。

第十四椎即ち第一腰椎棘狀突起の下際に在り、棘間筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

腰椎神經の後枝。

腰動脈の背枝。



鍼灸の應用。

遺精、失精、陰萎、精系痙攣、白帶下、子宮諸疾患、急痲、腦膜炎、腰痛、間歇熱、腸諸疾患。  
灸七壯乃至十五壯。

懸 樞

第十三椎即ち第十二胸椎棘狀突起の下際に在り、腰背筋膜上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

消化不良、腸カタル、腹痛、陰萎、腰背筋の疼痛、腸疝痛。

灸七壯乃至十五壯。

接 脊

第十二椎即ち第十一胸椎棘狀突起の下際に在り、僧帽筋の間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

下痢の諸疾患、腸疝痛、脱肛、慢性腹膜炎。

灸七壯乃至十五壯。

(脊 中) 禁灸穴

第十一椎即ち第十胸椎棘狀突起の下際に在り、僧帽筋の間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。



後肋間動脈の背枝。

鍼の應用。

癲癇、急癇、胃痙攣、腸カタル、痔の諸症。

十 椎

第十椎即ち第九胸椎棘状突起の下際に在り、僧帽筋の間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

胸背筋の攣急、同萎縮、喘息、吃逆、ヒステリー、神経衰弱、脊髄勞、筋萎縮、便秘。

但し此穴は鍼灸共に禁すと云ふ説あり。

應用するとすれば七壯乃至十五壯。

筋 縮

第九椎、即ち第八胸椎棘状突起の下際に在り、僧帽筋の間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

ヒステリー、神経衰弱、癲癇、急癇、子癇、癲狂、脊髄勞、灸七壯乃至十五壯。

至 陽

第七椎即ち第六胸椎棘状突起の下際に在り、僧帽筋の間に當る。

此部に分佈する神経、血管。



胸椎神經の後枝。  
後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

胸背筋の疼痛、肋間神經痛、脊髓勞、胃弱、食道狹窄、腸疝痛、糖尿  
病、筋萎縮、營養障礙、白血病。

灸七壯乃至十五壯。

〔靈〕

台〕 禁鍼穴。

第六椎即ち第五胸椎棘狀突起下際に在り、僧帽筋の間に當る。

此部に分佈する神經、血管。

胸椎神經の後枝。

後肋間動脈の背枝。

灸療の應用。

氣管支カタル、肋膜炎、背部の癱、神經衰弱、上顎竇蓄膿症、上顎  
骨々膜炎。

灸七壯乃至十五壯。

〔神〕

道〕 禁鍼穴。

第五椎即ち第四胸椎棘狀突起の下際に在り、僧帽筋の間に當る。

此部に分佈する神經、血管。

胸椎神經の後枝。

後肋間動脈の背枝。

灸療の應用。

半身不隨、失語症、神經衰弱、脊髓勞、背筋攣痛、牙間緊急、脚氣。  
灸七壯乃至十五壯。

身

柱 改正孔穴、背部正中線の内。



第三椎即ち第二胸椎棘状突起の下際に在り、僧帽筋の間に當る。

灸

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

後肋間動脈の背枝。

鍼灸の應用。

癲癇、急痲、狭心症、項背筋の攣急、心悸亢進、舞踏病、アテトーゼ、

衄血。

灸七壯乃至十五壯。

### 陶 道

第一椎即ち第七頸椎棘状突起の下際に在り、僧帽筋の間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

胸椎神経の後枝。

横頸動脈の上行枝。

鍼灸の應用。

急痲、癲癇、狭心症、項部及び肩胛部の筋攣痛、震顛、書癩、食道狭窄。

灸七壯乃至十五壯。

### 大 椎

改正孔穴、背部正中線の内。

第一椎の上際に在り、第七頸椎と第六頸椎棘状突起下際との間に在り、左右僧帽筋の間に在り、項韌帯の上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

頸椎神経の後枝。

横頸動脈の上行枝。

鍼灸の應用。

衄血、項背筋の強急、筋萎縮、嘔吐ある諸症、喉頭の諸疾患、肺勞、

灸



肺氣腫、肺炎、急性鼻カタル、ヒステリー。  
灸七壯乃至十五壯。

(症)

門) 禁灸穴、改正孔穴、頭部正中線の内。

頭部矢状線にて後頭骨外後頭結節の下方に在り、後髮際(若し後髮際の不明なるものは大椎より上方へ二寸五分の點とす)よりは五分上方にて、僧帽筋間に當り、第二頸椎の邊に相當す。

此部に分佈する神經、血管、

頸椎神經の後枝。

後頭動脈の分枝。

鍼の應用。

衄血、項筋の攣急、頭痛、半身不隨、中風症にて人事不省に陥入りたるもの。

但し鍼深く刺すを禁す。

(風)

府) 禁灸穴。

頭部正中線にて大後頭結節の下際より下方一寸五分、後髮際(若し不明なるものは大椎より上方二寸五分を後髮際とす)よりは上方に入る一寸に在り、僧帽筋の間にて項靱帶の上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

大後頭神經(第二頸椎神經の後枝)

後頭動脈の枝。

鍼の應用。

癲狂、頭痛、半身不隨、言語澁滯、諸熱性病。  
但し鍼深く刺すを禁す。

(腦)

戸) 禁鍼穴。改正孔穴、頭部正中線の内。



頭部矢狀線にて後頭骨外後頭結節の直上凹陥せるところに在り、帽狀腱膜上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

大後頭神經（第二頸椎神經の後枝）

後頭動脈の枝。

灸療の應用。

頭痛、眩暈、眼球の疼痛、舌麻痺。

灸應用することなし。

強 間

頭部正中線にて後頭骨外後頭結節の上方一寸五分に在り、前方より云へば後頭顱門（左右顱頂骨と後頭骨と聯接するところ）即ち後頂の後方一寸五分にて帽狀腱膜上に當る。

此部に分佈する神經、血管、

大後頭神經（第二頸椎神經の後枝）

後頭動脈の枝。

鍼灸の應用。

頭痛、眩暈、腦諸疾患より來る嘔吐。

灸應用することなし。

後 頂 改正孔穴、頭部正中線の内。

頭部矢狀線にて後頭顱門（左右顱頂骨と後頭骨と聯合するところ）の上に在り、即ち百會（頭部矢狀線にて左右兩顱頂結節を連合する線が正中線と交叉するところ）の後方一寸五分、外後頭結節より上方二寸五分にて、帽狀腱膜上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

大後頭神經（第二頸椎神經の後枝）



後頭動脈の枝。

鍼灸の應用。

癩癩、偏頭痛、眩暈、不眠症。

灸應用することなし。

〔百〕

會 禁鍼穴、改正孔穴、頭部正中線の内。

頭部矢狀線にて左右顛頂結節（或は兩耳孔）を連合する線と正中線と交叉する點に在り、前頭髮際より入ること五寸にて帽狀腱膜の上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

大 後 頭 神 經（第二頸椎神經の後枝）

淺顛顛動脈の後枝。

灸療の應用。

急癩、腦充血、半身不隨、脱肛、重聽、嗅覺減損、味覺異常。

灸五壯乃至十五壯。

前 頂

頭部矢狀線にて前髮際を入ること三寸五分、即ち顛會（頭部矢狀線にて大顛門の中央の後方一寸五分に在り、帽狀腱膜の上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

前 頭 神 經（三叉神經第一枝の枝）

淺顛顛動脈の前枝。

鍼灸の應用。

面疔、頭瘡、腦充血、腦貧血、頭痛、眩暈、小兒痙攣。

灸應用することなし。

〔顛〕

會 禁鍼穴、改正孔穴、頭部正中線の内。

頭部正中線にて前頭骨と左右の顛頂骨と聯接するところ、即ち大顛門（或は前



頭顱門の中央に在り、前頭髮際より入るところ二寸にて帽狀腱膜の上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

前頭神經 (三又神經第一枝の枝)

淺頰顱動脈の前枝。

灸療の應用。

急痼、腦充血、腦貧血、衄血、慢性鼻カタル、頭痛、嗜眠症。

灸應用することなし。

上星

頭部矢狀線にて前頭髮際(若し不明なるものは眉毛間より上方二寸五分の點を前頭髮際とす)を入る一寸に在り、皮下は帽狀腱膜を存す。

此部に分佈する神經、血管。

前頭神經 (三又神經第一枝の枝)

前頭動脈。

鍼灸の應用。

腦充血、頭痛、眩暈、眼の充血、鼻腔の諸疾患、上顎竇蓄膿症。

灸應用することなし。

〔神庭〕 禁鍼穴、改正孔穴、頭部正中線の内。

前頭正中線にて前髮際を入れること五分、即ち眉毛より上方三寸のところにて在り、(或は四寸五分といふ説あり)前頭筋上に當る。

此部に分佈する神經、血管。

前頭神經 (三又神經第一枝の枝)

上眼窠動脈。

灸療の應用。

癩癩、急痼、頭痛、オツエナ(臭鼻)、急性鼻カタル。



灸應用することなし。

(素)

膠) 禁灸穴。

鼻の尖端に在り、鼻壓縮筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

篩骨神経(三又神経第一枝眼神経の枝)

内眦動脈(外頸動脈の枝)

鍼灸の應用。

鼻カタル、鼻閉塞の諸症。

水

溝 改正孔穴、顔面部の内。

鼻中膈の直下にて人中溝の正中に在り、口輪匠筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

下眼窠神経(三又神経第二枝の枝)

鍼灸の應用。

上唇動脈(外頸動脈の枝)

癩痢、卒中、顔面神経麻痺、腎炎。

灸應用することなし。

兗

端

上口唇の中央、即ち人中溝の下端にて皮膚と粘膜との境に在り、口輪匠筋上に當る。

此部に分佈する神経、血管。

下眼窠神経(三又神経第二枝上頸神経の枝)

上唇動脈(外頸動脈の枝)

鍼灸の應用。

癩痢、齒齦炎、衄血、鼻腔の諸疾患、水腫諸症。



灸應用することなし。

断交

上口唇の裏面、即ち上唇繫帯の下端にて上顎齒槽突起の前部に在り。

此部に分岐する神経、血管。

前上齒槽神経（三叉神経第二枝の枝）

下眼窠動脈。

鍼灸の應用。

撮口風（初生兒破傷風）、鼻カタル、角膜炎。

灸應用することなし。

第十四、任脉經

二十四穴

〔會陰〕 禁錘穴。

會陰部の中央に在り、即ち男子は陰囊と肛門との間にて尿道の上、又女子は後連合と肛門との間に當る。

此部に分佈する神経、血管。

會陰神經。

會陰動脈（内陰部動脈の枝）

灸療の應用。

腫瘰癧、陰部搔痒症、バルトリン氏腺炎、痔の諸症、肛門裂創、肛門周圍炎、溺死。  
灸應用することなし。



曲骨

腹部正中線にて臍窩(神闕)の下方五寸に在り、恥骨縫合の上縁に當る、三角筋上にて内部は膀胱を存す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

外陰部動脈。

鍼灸の應用。

膀胱カタル、尿閉、子宮内膜炎、白帶下。

灸十壯乃至二十壯。

中種

腹部正中線にて臍窩(神闕)の下方四寸に在り、白條中にて内部は小腸を存し膀胱の上端に近きところに當る、婦人は子宮に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

男子及び婦人の不妊症、子宮病一切、喇叭管炎、子宮周圍炎、陰門瘙痒症、情慾亢進、失精、血尿、膀胱麻痺。

灸十壯乃至二十壯。

關元

改正孔穴、腹部正中線の内。

腹部正中線にて臍窩(神闕)の下方三寸に在り、白條の上にて内部は小腸を存し、膀胱の上端に接近す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。



下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

頭瘡、尿閉、膀胱カタル、攝護腺炎、淋病、月經不調、下腹壁痛、産後惡露多きもの、子宮内膜炎。

但し妊婦は鍼灸共に禁す。

灸十壯乃至二十壯。

又此穴に刺鍼するときは、妊婦墮胎すと云ふ。

### 石門

腹部正中線にて臍窩(神門)の下方二寸に在り、白條中にて、内部は小腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

淋病、尿閉、睪丸炎、下腹壁痛、腸カタル、消化不良。

但し妊婦鍼灸禁穴とす。

灸十壯乃至二十壯。

又成年の婦人に用ふれば不妊になると云ふ。

### 氣海

腹部正中線にて臍窩(神門)の下方一寸五分に在り、白條中にて内部は小腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

腸骨下腹神経。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。



神經衰弱、ヒステリー、全身衰弱、子宮諸疾患、卵巢諸疾患、喇叭管の諸症、小兒遺尿、慢性腹膜炎。  
灸十壯乃至二十壯。

陰交

腹部正中線にて臍窩(神闕)の下方一寸に在り、白條中にて、内部は小腸を存す。

此部に分佈する神經、血管。

肋間神經の前穿行枝。

下腹壁動脈。

鍼灸の應用。

腸攣痛、鼓脹、産後惡露多きもの、婦人陰部瘙痒症、陰萎、睪丸炎、子宮痙攣、子癇。  
灸十壯乃至二十壯。

〔臍中〕禁鍼穴。

臍窩の中央に在り。

此部に分佈する神經、血管。

肋間神經前穿行枝。

下腹壁動脈。

灸療の應用。

卒中、霍亂、腸カタル、淋病、膀胱カタル、日射病、凍死、婦人  
不妊症。

但し直接に灸灸することなし、只隔蒜灸、或は鹽灸として用ふ。

灸應用することなし。

〔水分〕禁鍼穴。

腹部正中線にて臍窩(神闕)の上方一寸に在り、白條中にて、内部は腸を存す。



此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

灸療の應用。

腸の疝痛、腸カタル、胃弱、胃擴張、鼓脹、腹水。

但し禁鍼穴なるも應用差支へなしと云ふ説あり。

灸十壯乃至二十壯。

下

腕 改正孔穴、腹部正中線の内。

腹部正中線にて臍窩(神闕)の上方二寸、即ち胸骨劍狀突起下端より下方五寸五分に在り、白條中にて、内部は小腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

腸カタル、腸疝痛、消化不良、胃擴張、慢性腹膜炎。

灸十壯乃至二十壯。

建

里 改正孔穴、腹部正中線の内。

腹部正中線にて胸骨劍狀突起下端より下方四寸五分に在り、臍窩(神闕)より上方三寸にて白條中に當り、内部は小腸を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

消化不良、嘔吐、腸カタル、腸疝痛、水腫。



灸十壯乃至二十壯。

中

腕 改正孔穴、腹部正中線の内。

腹部正中線にて胸骨剣状突起の下端より下方三寸五分に在り、即ち臍窩(神關)よりは上方四寸に當り、白條中にて内部は胃の下部及び十二指腸の邊に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上 腹 壁 動 脉。

鍼灸の應用。

急性及び慢性の胃カタル、胃弱、胃擴張、消化不良、胃痛、吐血、黄疸、胃痙攣。

灸十壯乃至二十壯。

上

院 改正孔穴、腹部正中線の内。

腹部正中線にて胸骨剣状突起の下端より下方二寸五分に在り、白條中にて、内部は胃を存す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上 腹 壁 動 脉。

鍼灸の應用。

胃諸疾患、嚥下困難、黄疸、腹部諸疾患、心悸亢進。

灸十壯乃至二十壯。

巨

關 改正孔穴、腹部正中線の内。

腹部正中線にて胸骨剣状突起の下端より下方一寸五分に在り、白條中にて、内部は胃を存す。



此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

胃痙攣、腸拘攣、蛔虫より來る胃腸障害、嘔吐、横膈膜痙攣、心囊炎、心悸亢進、胸腹部の神経痛、精神異常。

〔鳩

尾〕 禁鍼灸穴、改正孔穴、腹部正中線の内。

腹部正中線にて心窩の中央に在り、胸骨劍狀突起の下端より下方五分に當り、白條中にて内部は胃に相當す。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経の前穿行枝。

上腹壁動脈。

鍼灸の應用。

鍼灸共に禁穴なるも、或は左の如き疾病に用ふることもありと云ふ説あり。

胃痛、小兒撮口風(初生兒破傷風)、鬱幽症、神経性心悸亢進。

中庭

胸部正中線にて胸骨体の下端即ち劍身と劍尖との境に在り、皮下は直ちに胸骨にて内部は肝臓の左縁及び胃の幽門部に當る。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経。

内乳動脈の前穿行枝。

鍼灸の應用。

食道狹小、嘔吐、小兒吐乳。



灸十壯乃至二十壯。

〔膻

中〕 禁鍼穴。

胸部正中線にて兩乳の間（第五肋間）に在り、即ち皮下は直ちに胸骨にて内部は心臓の右縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

内乳動脈の前枝。

灸療の應用。

食道狭窄、肺壞疽、氣管支カタル、喘息、肋間神経痛、乳汁分泌不足。  
灸七壯乃至十五壯。

五

堂

胸部正中線にて胸骨劍柄と劍身との境（華蓋）の下方三寸二分、即ち胸骨頸截痕

の中央より五寸三分下方に在り、皮下は直ちに胸骨にして、内部は心臓の右縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。

肋間神経前穿行枝。

前肋間動脈（内乳動脈の枝）

鍼灸の應用。

肋間神経痛、肺水腫、氣管支カタル。

灸七壯乃至十五壯。

紫

宮

前胸正中線にて胸骨劍柄と劍尖との境（華蓋）の下方一寸六分、即ち胸骨頸截痕の中央より三寸七分下方に在り、内部は心臓の右縁に當る。

此部に分佈する神経、血管。



肋間神經前穿行枝。

内乳動脈の分枝。

鍼灸の應用。

肋間神經痛、氣管支カタル、肺氣腫、咯血。

灸七壯乃至十五壯。

華

蓋

胸部正中線にて胸骨頸截痕の中央より下方二寸一分、即ち胸骨劍柄と劍身との境に在り、内部は氣管を存す。

此部に分佈する神經、血管。

肋間神經の前穿行枝。

内乳動脈の前枝。

鍼灸の應用。

喘息、呼吸困難、咳嗽、扁桃腺炎、肋間神經痛。  
灸七壯乃至十五壯。

璇

璣

胸部正中線にて胸骨頸截痕の中央より下方一寸に在り、皮下は直ちに胸骨劍柄にて、内部は氣管を存す。

此部に分佈する神經、血管。

肋間神經前穿行枝。

内乳動脈の分枝。

鍼灸の應用。

肋間神經痛、狭心症、肺水腫。

灸七壯乃至十五壯。

天

突

改正孔穴、頸部の内。



秉

胸骨上窩の中央、即ち胸骨頸截痕上際の中央に在り、左右の胸鎖乳嘴筋内頭の中間にて、内部は氣管を存す。

此部に分佈する神經、血管。

下頸皮下神經。

下甲狀腺動脈。

鍼灸の應用。

食道狹窄、甲狀腺腫、舌筋麻痺、氣管支カタル、喘息、聲門痙攣。

廉 泉

顎下の正中にて結喉の上方、即ち舌骨體の上縁に在り、左右の胸骨舌骨筋停止部の中間に當る。

此部に分佈する神經、血管。

上頸皮下神經。

下甲狀腺動脈。

鍼灸の應用。

舌筋麻痺、舌筋痙攣、喘息、蝦蟇腫、咽喉カタル、氣管支カタル。  
灸應用することなし。

承 漿

下口唇の下部にて頤唇溝の中央に在り、左右方形頤筋の間に當る。

此部に分佈する神經、血管。

頤 神 經 (三叉神經第三枝の分枝)

下唇動脈 (外頸動脈の枝)

鍼灸の應用。

顔面神經麻痺、下齒の疼痛、舌麻痺。  
灸療應用することなし。

秉



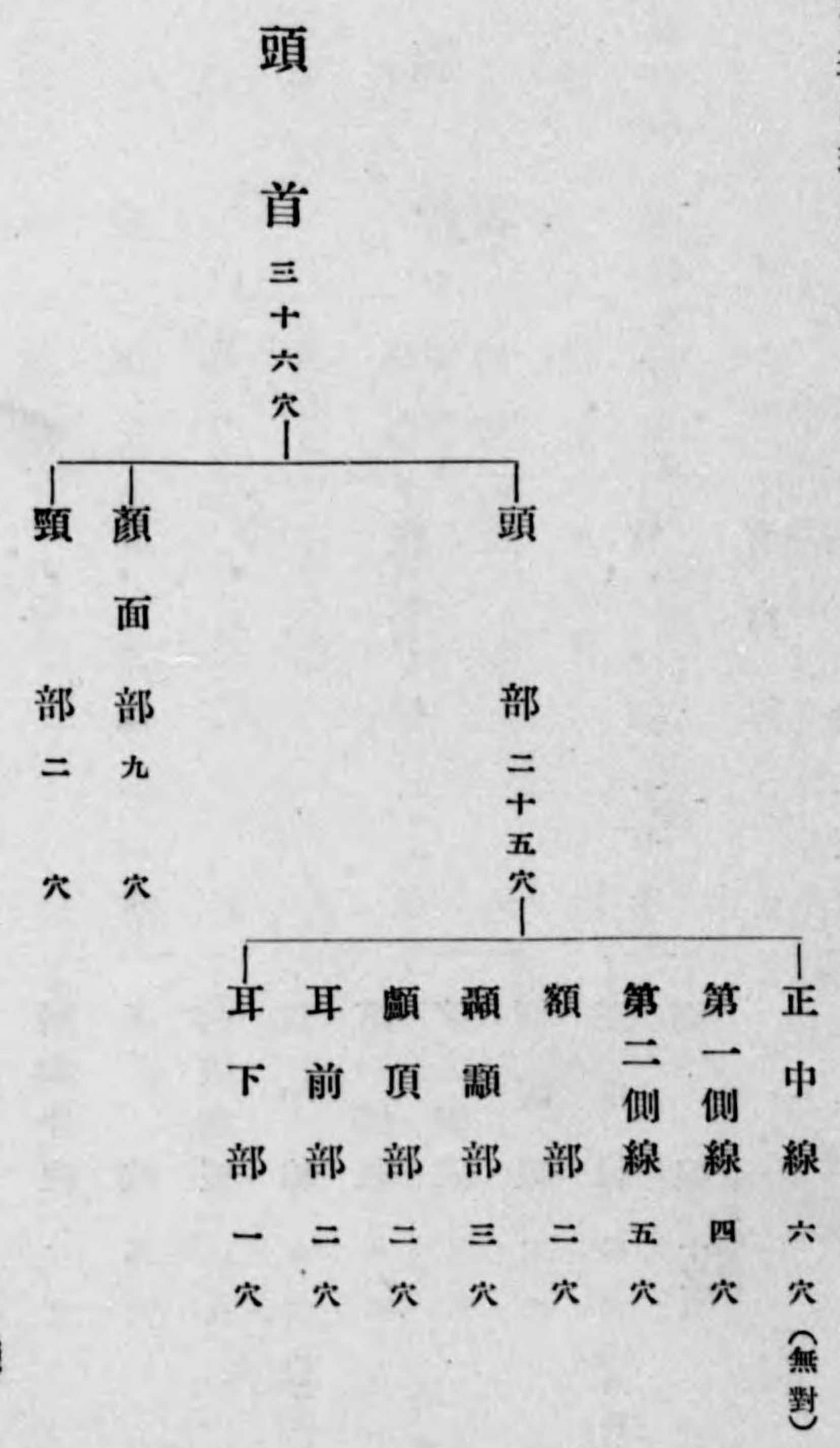
## 第四章 改正孔穴

改正孔穴は大正七年十二月文部省經穴調査會の發表せるもので、爾來鍼治及び灸療の應用要穴をこれに據らしめることに定められたのである。

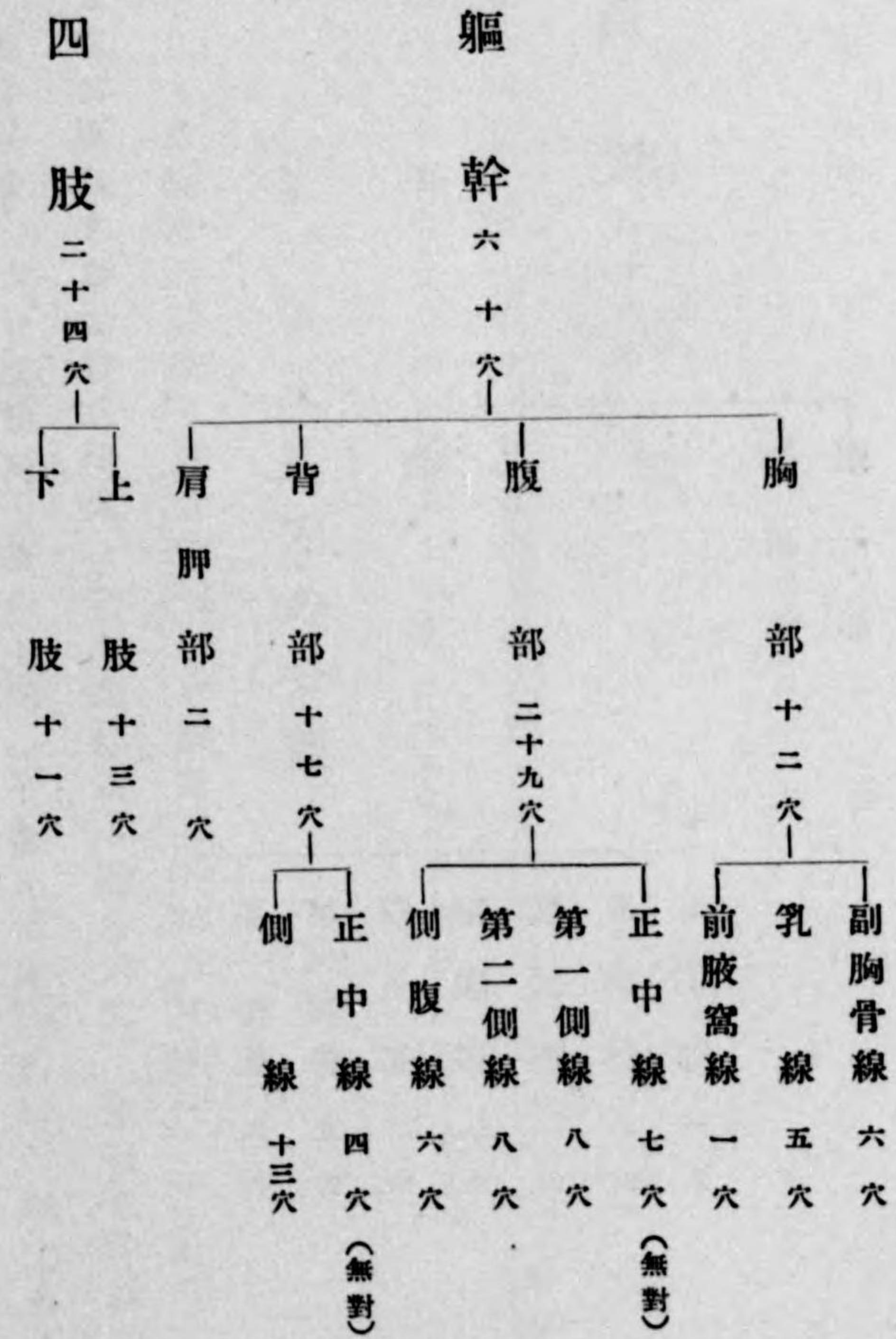
### I、改正孔穴の分類

改正孔穴は經絡の關係を用ひず、只身體各部の穴を分類す。孔穴は其名稱に於て百二十穴、即ち頭部正中線の六穴、顔面正中線の一穴、前頭部正中線の一穴、腹部正中線の七穴、背部正中線の四穴、以上合せて十九穴（以上無對）と、其他の百〇一穴（有對）である。故に此左右の數を合すれば二百二

穴にして、而して更にこれに無對の十九穴を合算するときは總數に於て二百二十一穴となる。之を表に現はすときは左の如し。







### I、十四經絡に於ける孔穴

#### 1、十四經絡に於ける各經の孔穴數

各經絡中に於ける改正孔穴の數は左の如し。

肺	經 (十一穴の内)	三穴
大腸	經 (二十穴の内)	六穴
胃	經 (四十六穴の内)	二十一穴
脾	經 (二十一穴の内)	六穴
心	經 (九穴の内)	無し
小腸	經 (十九穴の内)	四穴
膀胱	經 (六十三穴の内)	二十穴



腎	心	三焦	膽	肝	任脉	督脉
經 (二十七穴の内)	經 (九穴の内)	經 (二十三穴の内)	經 (四十三穴の内)	經 (十四穴の内)	經 (二十四穴の内)	經 (三十穴の内)
十五穴	無し	八穴	十六穴	二穴	八穴	十一穴

2、十四經絡の各經に於ける孔穴名

一、肺經 三穴  
 中府 俠白 尺澤

一、大腸經 六穴	一、胃經 二十一穴	一、脾經 六穴	一、心經 無し	一、小腸經 四穴
合谷 三里 曲池 肩髃 天鼎 迎香	四白 巨膠 地倉 大迎 頰車 下關 頭維 氣戶 庫房 屋翳 膺窓 乳根 不容 承滿 梁門 關門 太乙 天樞 外陵 水道 三里	三陰交 陰陵泉 衝門 腹結 大橫 腹哀		



一、膀胱經 二十穴 肩貞 曲垣 肩外 頰膠 天柱 大杼

攢竹 曲差 承光 通天 胃俞 腎俞

肺俞 心俞 膈俞 肝俞 胃俞 腎俞

大腸俞 白環俞 上膠 中膠 次膠 下膠

承扶 飛揚

一、腎經 十五穴 水泉 大赫 四滿 盲俞 商曲 石關

陰都 通谷 幽門 步廊 神封 靈墟

神藏 或中 俞府

一、心包經

無し

一、三焦經 八穴 陽池 支溝 四瀆 天井 清冷淵 消滌

翳風 絲竹空

一、膽經 十六穴 聽會 上關 曲鬢 率谷 竅陰 陽白

臨泣 正營 承靈 腦空 風池 環跳

五樞 中瀆 陽陵泉 懸鐘

一、肝經 二穴 陰廉 脇膠

一、督脉經 十一穴 長強 命門 身柱 大椎 瘻門 腦戶

後頂 百會 顛會 神庭 水溝



一、任脉經 八 穴

關元 下腕 建里 中腕 上腕 巨闕  
鳩尾 天突

灸

二、身體各部に於ける孔穴

本項に鍼灸の禁穴記號を附せるものは古來の慣例に據るものにして改正孔穴に於ては鍼灸の禁穴無し。

い、頭 部 二十五穴

- (1) 正中線 六 穴  
〔神庭〕 〔顙會〕 〔百會〕 後頂 〔腦戶〕 〔瘧門〕
- (2) 第一側線(矢狀線の外方二横指) 四 穴

曲差 (承光) 通天 (天柱)

- (3) 第二側線(矢狀線の外方四横指) 五 穴

(臨泣) 正營 〔承靈〕 腦空 風池

- (4) 額 部 二 穴

(攢竹) 陽白

- (5) 顙 部 三 穴

(頭維) (絲竹空) 曲髮

- (6) 顙 頂 部 二 穴

率谷 天衝

- (7) 耳 前 部 二 穴

上關 聽會

- (8) 耳 下 部 一 穴

灸



翳風

ろ、顔面 九 穴

(迎香) 四白 巨髎 地倉 (下關) 頰車

大迎 (顴髎) 水溝

は、頸部 二 穴

天鼎 天突

に、胸部 十二 穴

(1) 副胸骨線(胸骨外縁に相當する線、即ち正中線の傍ら二横指) 六 穴

兪府 或中 神藏 靈墟 神封 步廊

(2) 乳 線(胸部正中線の傍ら四横指) 五 穴

氣戸 庫房 屋翳 膺窓 乳根

(3) 前腋窩線(腋窩前縁の通り、即ち正中線の傍ら六寸) 一 穴

中府

ほ、腹部 二十九 穴

(1) 正中線 七 穴(無對)

[鳩尾] 巨關 上腕 中腕 建里 下腕

關元

(2) 第一側線(正中線を距る傍ら半横指) 八 穴

幽門 通谷 陰都 石關 商曲 盲兪

四滿 大赫

(3) 第二側線(正中線を距る傍ら二横指半) 八 穴

不容 承滿 梁門 太乙 天樞 外陵

水道

(4) 側腹部 六 穴



へ、背部 十七穴  
 (腹哀) 大横 腹結 衝門 脇髎 五樞

(1)、正中線 四穴(無對)

大椎 身柱 命門 長強

(2)、側線(正中線を距る傍ら二横指)十三穴

大杼 肺俞 (心俞) 膈俞 肝俞 胃俞  
 腎俞 大腸俞 (白環俞)

以下四穴は正中線の傍ら半横指。

上髎 中髎 次髎 下髎。

と、肩胛部 二穴

曲垣 肩外

ち、上肢部 十三穴

消灤 清冷淵 四犢 天井 俠白 尺澤  
 曲池 三里 肩髃 (肩貞) 支溝 合谷  
 (陽池)

り、下肢部 十一穴

陰廉 環跳 (承扶) 中瀆 陽陵泉 三里  
 (陰陵泉) 飛揚 三陰交 懸鐘 水泉

Ⅲ、改正孔穴各個の説明

い、頭部 二十五穴

1、正中線(矢狀線) 六穴

〔神庭〕



正中線にて前頭髮際に在り、眉より上方四横指とするも同じ。

〔顛 會〕

大顛門の部、即ち左右顛頂骨と前頭骨と接觸する點に相當す。

〔百 會〕

左右顛頂結節を連合する線と矢狀線と交叉する點にて頭蓋の顛頂に在り。

後 頂

百會から後へ一横指半、又外後頭結節からなれば前上方へ三横指の點にして

左右顛頂結節と後頭骨との接觸點、即ち後頭顛門に相當す。

〔腦 戸〕

外後頭結節直上方の凹陷部の點に在り。

〔瘧 門〕

正中線にて項部髮際、外後頭結節から下方二横指の點に在り。

2、頭部第一側線（正中線の外方二横指） 四 穴

曲 差

正中線神庭の外方二横指、前頭髮際に在り。

（承 光）

曲差の後方二横指半、冠狀縫合の内にて前頭顛門の外側に相當す。

通 天

承光の後方二横指にて百會から外方へ二横指に當る。

（天 柱）

瘧門の外方二横指にて後頭部髮際の外縁に在り。

3、頭部第二側線（正中線の外方四横指） 五 穴



(臨 泣)

神庭の外方四横指にて、外眦の上方の髪際に在り。

正 營

臨泣の後方二横指半にて冠狀縫合の外部に相當す。

[承 靈]

正營の後方二横指に在り、顛頂結節に相當す。

腦 空

承靈の後方二横指に在り、乳嘴突起の上方に當り、顛頂結節と外後頭結節との中間に相當す。

風 池

後頭部の髪際にて耳垂の下縁と同じ高さに在り、僧帽筋と胸鎖乳嘴筋との間に當る。

4、額 部 二 穴

(擯 竹)

眉の内端の下縁にて正中線より一横指外方に在り、即ち上眼窠神経が上眼窠截痕より皮下に出づる部に相當す。

陽 白

眉の中央より上方一横指に相當す。

5、顛 顛 部 三 穴

(頭 維)

前頭の髪際の外上角に在り、正中線より四横指半の點とす。

曲 鬢



三六  
顴骨弓の上方一横指許り、即ち髮際に在り、通常耳上の髮際と云ふ。

(絲竹空)

眉の外端に在り。

6、顴頂部 二穴

率谷

顴頂結節より下方(耳の方)へ一横指に在り、角孫の上一寸五分の點より前三分に在り。

竅陰

乳嘴突起の基底の後方、後頭骨に聯接する部に在り、耳孔と平行せる高さに當る。

7、耳前部 二穴

上關

外眦と耳前髮際の間にて顴骨弓の上縁に在り。

聽會

耳珠の前にて下顎骨頭の後縁に在り、口を開けば小凹陷を生ずる點なり。

8、耳下部 一穴

翳風

耳垂と乳嘴突起との間の凹陷部に在り。

9、頰面部 九穴

(迎香)



鼻唇溝の上部にて鼻孔の傍らに在り。

四 白

下眼窠縁の中央の下方一横指に在り、下眼窠神経が下眼窠孔を出づる邊に相當す。

巨 膠

鼻孔の外方一横指許りに在り、上顎第一小白齒の齒齦部に當る。

地 倉

口角の外方半横指に在り。

(下 關)

顎骨弓の下縁にて下顎關節の前に在り。

頰 車

下顎隅の後端に在り。

大 迎

下顎隅の前方約一横指半、咬筋の前縁に在り、外顎動脈の通路に當る。

(顴 膠)

顴骨突起の下縁にて咬筋の前縁に在り。

水 溝

人中溝の正中に在り。

は、頸 部 二 穴

天 鼎

前頸部喉頭結節の外方にて胸鎖乳嘴筋の前縁に在り、即ち上顎三角の胸鎖乳嘴筋前縁の中部に當る、此點は總頸動靜脈、迷走神経の經路に接近す。

天 突



胸骨の上端、胸骨上窩の中央に在り。

に、胸部 十二穴

1、副胸骨線（胸骨の外縁に相當する線） 六穴

愈府

第一肋間にて胸骨の外縁に在り。

或中

第二肋間にて胸骨の外縁に在り。

神藏

第三肋間にて胸骨の外縁に在り。

靈墟

第四肋間にて胸骨の外縁に在り。

神封

第五肋間にて胸骨の外縁に在り。

歩廊

第六肋間にて胸骨の外縁に在り。

2、胸部乳線

五穴

氣戸

第一肋間にて乳線に在り。

庫房

第二肋間にて乳線に在り。

屋翳

第三肋間にて乳線に在り。



膺 窓

第四肋間にて乳線に在り。

乳 根

第六肋間にて乳線に在り。

3、前腋窩線（腋窩前縁の通り） 一 穴

中 府

庫房の外方二横指に在り。

ほ、腹 部 二十九穴

1、正 中 線 七 穴

〔鳩 尾〕

胸骨下端の下方一横指にて心窩の中央に在り。

巨 闕

鳩尾の下二横指に在り。

上 腕

鳩尾の下三横指に在り。

中 腕

鳩尾の下四横指に在り。

建 里

鳩尾の下五横指に在り。

下 腕

臍上二横指の正中線に在り。

關 元



臍下三横指の正中線に在り。

2、腹部第一側線（正中線の外方半横指） 八 穴

幽 門

巨闕の傍ら半横指に在り。

通 谷

上腕の傍ら半横指に在り。

陰 都

中腕の傍ら半横指に在り。

石 關

建里の傍ら半横指に在り。

商 曲

下腕の傍ら半横指に在り。

盲 俞

臍の傍ら半横指に在り。

四 滿

盲俞の下方二横指に在り。

大 赫

四滿の下方二横指にて中極の傍ら半横指に在り。

3、腹部第三側線（正中線の外方二横指半） 八 穴

不 容

巨闕の傍ら二横指半、即ち幽門の外方二横指に在り。

承 滿



不容の下一横指に在り。

梁門

承滿の下一横指に在り。

關門

梁門の下一横指に在り。

大乙

關門の下一横指に在り。

天樞

大乙の下一横指に在り、臍と併行す。

外陵

天樞の下一横指に在り。

水道

外陵の下一横指に在り。

4、側腹部

六穴

(腹 哀)

建里の外方にて乳線に在り。

大横

腹哀の下方三横指に在り。

腹結

大横の下一横指に在り。

衝門

腸骨前上棘の内下方五横指にて鼠蹊部皺溝の外端に近き處に在り。

脇膠



第十一肋骨の尖端の下方の部に在り。

五 樞

脇髒の下方五横指に在り。脇骨前上棘の上部に當る。

へ、背部 十七穴

1、正中線 四穴

大 椎

第七頸椎棘状突起の下に在り。

身 柱

第三胸椎棘状突起の下に在り。

命 門

第二腰椎棘状突起の下に在り。

長 強

尾閼骨の尖端に在り。

2、背部側線(正中線の外方二横指) 十三穴

大 杼

第一胸椎棘状突起の下より外方へ二横指に在り。

肺 俞

第三胸椎棘状突起の下より外方へ二横指に在り。

(心 俞)

第五胸椎棘状突起の下より外方へ二横指に在り。

膈 俞

第七胸椎棘状突起の下より外方へ二横指に在り。



肝 愈

第九胸椎棘状突起の下より外方へ二横指に在り。

胃 愈

第十三胸椎棘状突起の下より外方へ二横指に在り。

腎 愈

第二腰椎棘状突起の下より外方へ二横指に在り。

大 腸 愈

第五腰椎棘状突起の下より外方へ二横指に在り。

(白 環 愈)

尾閼骨の外方二横指に在り。

以下四穴は側線と異なる一線、即ち正中線を距る半横指に在り。

上 膠

腸骨後下棘の下方の部に、即ち第一後薦骨孔に相當す。

中 膠

第二薦骨椎假棘状突起下の外方半横指に在り、即ち第二後薦骨孔に相當す。

次 膠

第三薦骨椎假棘状突起下の外方半横指に在り、即ち第三後薦骨孔に相當す。

下 膠

第四薦骨椎假棘状突起下の外方半横指に在り、即ち第四後薦骨孔に相當す。

と、肩 胛 部 二 穴

曲 垣

肩胛骨の中央にて肩胛棘の盡くる處の上縁に在り、即ち肩胛骨棘状截痕の上  
部中央に當る。



肩 外

第一胸椎棘状突起下の外方にて、即ち陶道の傍ら三横指に在り、肩胛骨上内縁に當る。

ち、上肢部 十三穴

消 滌

上膊外側の中央、三角筋の停止部より少しく下後方に在り。

清 冷淵

上膊後側にて尺骨の鶯嘴突起の尖端より上方二横指に在り。

四 瀆

前膊の後側にて尺骨の外縁、肘突起(鶯嘴突起)の端より下方へ五横指に在り。

天 井

上膊の後側にて尺骨の鶯嘴突起の上方一横指に在り。

俠 白

上膊前側の中央、尺澤より上方五横指に在り。

尺 澤

肘關節の前面の正中にて二頭膊筋腱の外縁に在り。

曲 池

肘を曲げて其横皺の外端に在り、即ち上膊骨上髁の直前に當る。

三 里

曲池の下方二横指に在り。

肩 髃

肩峰突起の直上方にて上膊を挙げると凹むところに在り。

(肩 貞)



上肢を下げて腋下に生ずる約紋の後端に在り、即ち肩峰突起の後下方二横指に當る。

支 溝

腕關節の背面より上方三横指にて總指伸筋腱の尺骨側に在り。

合 谷

拇指と示指との間の約紋の上端に在り、第一掌骨と第二掌骨の間の略中央に當る。

(陽 池)

腕關節背面の中央にて稍小指側に偏するところに在り、總指伸筋腱の外縁に當る。

り、下 肢 部 十一 穴

陰 廉

鼠蹊溝の中央の部に在り。

環 跳

大轉子の前方にて、膝を屈して大腿を腹に接着せしめる時に生ずる約紋の外端に在り。

(承 扶)

臀部の下溝、即ち臀皺襞の中央部に在り。

中 瀆

大腿の外側にて大腿骨の下端より上へ五横指に在り、四頭股筋の外縁とす。

陽 陵 泉

膝を屈して生ずる約紋の外端の下方一横指に在り、即ち腓骨小頭の前縁に當る。

三 里



膝の下外方三横指、即ち下腿前側の上部で膝蓋骨の下方脛骨結節の外部に相當す。

(陰 陵 泉)

脛骨の關節髁の後内方の直下部にて、腓腸筋内頭の起始部に在り。

飛 揚

足の外踝の上方七横指にて腓骨の後縁に在り。

三 陰 交

足の内踝の上方三横指にて脛骨の内縁に在り。

懸 鐘

足の外踝の中央より上方三横指にて腓骨の前縁に在り。

水 泉

内踝の後下方一横指に在り。

### 第五章 禁 穴

禁穴は古來鍼治及び灸療に用ふることを禁じられたる點穴にして、之に禁灸穴及び禁鍼穴の二種がある。

#### 一、經 絡 的 禁 穴 (即ち古來定められたる禁穴)

##### 1、 禁 灸 穴

左の四十六穴を灸の禁穴とす。

承 光 (膽) 癰 門 (督) 風 府 (督) 天 柱 (膽) 素 膠 (督)